

『洞谷記』二種対照 二一二(二)

河合泰弘

凡例

一、対照に使用したテキストは、左記の二本である。

流布本・大乗寺本 一巻一冊 享保三年（一七一八）筆写

石川県金沢市大乗寺所蔵（石川県立美術館委託保管）

古写本・大乗寺本（秘本）一巻一冊 永享四年（一四三二）

筆写 石川県金沢市大乗寺所蔵（石川県立美術館委託保管）

一、本文校定に際しては、左記の翻刻資料を参考にした。

流布本・『曹洞宗全書』宗源下（曹洞宗宗務庁／昭和五年）所収
本

本

『常済大師全集』（大本山總持寺／昭和一二年）所収
本

『洞谷記』二種対照 二一二(二)（河合）

古写本・『宗学研究』第一六号（大谷哲夫翻刻／昭和四九年）
所収本

なお、本文中の句読点・返点は、原文及び右記の翻刻資料を参考に筆者において記した。

一、本文対照にあたっては、流布本の本文順序を基準として段落を区切つて上段に載せ、それに対応する古写本の該当本文

を下段に配列した。なお、両本の段落分け・段数は松田文雄氏の分類に従つた。（『瑩山禪』卷九 四六～五二頁）

一、大乗寺流布本を編集する際、「大乗寺室中の秘本」により補われた段落は、段落番号を【】で表した。

一、本文の字句は原本を忠実に再現することにつとめた。また、原本にある文中の注記は、繁雑になることを避けるため、その位置の右側に番号を付し、各段落の末尾にまとめて記した。

『洞谷記』二種対照 二十一(一) (河合)

一、流布本については大乗寺本と永光寺本（一巻一冊、石川県羽咋市永光寺所蔵）・駒澤大学本（一巻一冊、駒澤大学図書館所蔵）との対校を行い、字句の異なる場合は、該当箇所の右側に丸数字を付し、各段落末尾に注として記した。その際、永光寺本は①、駒澤大学本は②の略号を用いた。

一、原本における異体字・略体字・古字体等は、特別な場合を除いて当用漢字を用いた。
一、本稿では、紙面の都合上、流布本の(61)～(90)までを掲載した。

流布本（大乗寺所蔵本）	古写本（大乗寺所蔵「秘本」）
(61) 同四月八日、開堂法儀次序。前日出「法堂東壁」云日本國、正中元年四月八日、 堂頭和尚就 ^三 本寺、開堂法儀次序。 辰時、法堂莊嚴、引 ^三 紅幔、今略レ之。法座、有転法輪蓋、八面八鏡、八竜八旛、有之。拄杖靠 ^三 雲牀 ^{一(2)} 、払子有 ^三 雲牀 ^一 。法座、左脇建 ^三 小椅、為 ^三 拈疏也。又、右脇建 ^三 小椅、白槌長老位。又、左辺莊 ^レ 香棹安 ^三 疏等。又正面階左右、白獅子二頭置 ^レ 之。左右階、左侍者登、右白槌登。又知事上肩、建 ^レ 椅檜那位。法座階下、建 ^レ 棹安 ^三 香炉 ^一 。正面設 ^レ 拜席、為檀那礼拝。又建 ^レ 棹安 ^三 襯物 ^一 。又建 ^レ 棹、花瓶香炉置 ^レ 之。為 ^三 檀那燒香。次就 ^三 于妙莊嚴院 ^一 点心。次鳴 ^三 法鼓、衆集如常。主人鳴 ^三 法事 ^一 入堂。錦幡傘蓋橋輿等、今略レ之。	(3) 同四月八日、開堂法儀次序。前日出「法堂東壁」云、日本國、正中元年四月八日、 堂頭和尚就 ^三 本寺、開堂法儀次序。 辰時、法堂莊嚴、引 ^三 紅縵、今略レ之。法座有 ^三 転法輪蓋、八竜八幡、八面八鏡、白獅子二頭。主丈入袋靠 ^三 雲床 ^一 、払子入袋安 ^三 香台 ^一 、左脇楷建 ^レ 之。右楷白槌長老登、左楷燒香侍者登。法座左脇建 ^三 小椅、為 ^三 拈疏。右脇建 ^三 小椅、白槌長老位。左辺莊 ^レ 棹安 ^三 疏等。知事上肩建 ^レ 靠椅、旦那位。法座階下、建 ^レ 棹安 ^三 香炉 ^一 。前設 ^レ 拜席、旦那拝。又建 ^レ 棹安 ^三 襯物 ^一 。又建 ^レ 棹、花瓶香炉、旦那燒香。次点心、就 ^三 妙莊院 ^一 。次鳴 ^レ 鼓、集來如常。但主人鳴 ^三 法事 ^一 入堂。錦幡傘蓋橋輿等、略 ^レ 之。

			白槌長老先入、立 _三 頭首上肩。登座時者、經 _三 法座之右。次檀那入堂、知客引、接 _三 知事上肩。次疏、先、主人前立 _二 小椅。檀那疏、都寺取度 _三 与主人、主人拈有 _三 法語。語畢、与 _三 燒香侍者 _一 賜 _三 度首座 _一 令 _一 宣讀。兩班疏、知客取度 _三 与主人、主人有 _三 法語。語畢 _⑤ 、与 _三 書狀侍者 _一 賜 _三 度維那 _一 令 _一 宣讀、云云。次主人指 _三 法座有 _三 法語。語畢 _⑥ 後、陞座、主人正階、燒香侍者左階、白槌長老右階、各登。次拈香、先祝聖、次檀那、次仏香、次嗣香。檀那香時、檀那燒香三拜、次主人著 _レ 椅後、燒香侍者下座、而階下問訊、在 _レ 之。次維那出班、而請 _一 白槌師 _一 。淨住長老、拈 _三 出袖裏金槌、一下曰、法筵竜象衆、當觀第一義。又一下。
			次且那入堂、知客引入、接 _三 知事上肩。次拈疏、主人立 _二 小椅前、旦那度 _三 疏与 _レ 師、有 _三 法語。與 _三 燒香侍者 _一 賜 _三 度首座 _一 令 _一 宣讀。兩班疏、知客度 _三 疏与 _レ 師、師拈 _三 法語畢、書狀侍者度 _三 維那 _一 令 _一 宣讀。次指 _三 法座有 _三 法語。次陞座、主人正楷、淨住長老右楷、燒香侍者左楷。次拈香、先祝聖、著 _レ 椅、侍者燒香下座、問訊楷下、兩班問訊如 _レ 常。但每 _三 問訊 _一 鳴 _三 法事。後淨住長老問訊。次白槌淨住長老、拈 _三 出袖裏金槌、白槌一下云、法筵竜象衆、當觀第一義。又一下。
			次問答說法畢、又白槌云、諦觀法王法、法王法如是。又白槌下座、旦那謝拜。次人事次第、每 _レ 拜首尾打 _レ 鑿。淨住寺、兩展三拜。頭首大衆、同。前資勤旧、同。侍者小師、大展三拜。尼衆、同。行者、三拜。沙弥童行、九拜。人工、再拜。
今月日	侍者	源照	承順
		謹白	
		今月日侍者	源照
		承順	謹白

『洞谷記』二種对照 二十一 (河合)

流布本 (大乘寺所藏本)

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

能州洞谷山東西両班素晉等並江湖雲集至簡等、

能州洞谷山東西両班尊道等、並江湖雲衆至簡等、

今月初八日 転

今月初八日、転

仏生令辰、請開堂轉法者。

仏生令辰、請開堂轉法者。

右伏惟、洞水逆流、宗派溢于江湖、大陽普照、光輝偏於日域。滔天波瀾、請欲識取根源。永光伝燈、願勿レ神ニ秘正命。令ミ此後五百歲、再見靈山会矣。謹疏

右伏惟、洞水逆流、宗派溢于江湖、大陽普照、光輝遍於日域。滔天波瀾、請欲レ識取根源。永光伝燈、願勿レ神ニ秘正命。令ミ此後五百歲、再見靈山会矣。謹疏

堂上大和尚 慈悲容納。

堂上大和尚、慈悲容納。

歷代諸仏祖 共作證明。

歷代諸仏祖、共作證明。

正中元年四月八日 両班素晉等。謹疏

元亨四年四月八日、両班素晉等。謹疏

能州賀島郡酒井保、洞谷山永光寺、

南閻浮提大日本國、能州賀島郡酒井保、洞谷山永光寺、

大檀那藤原家方等、

大旦那藤原家方、

今月初八日、恭遇

今月初八日、恭遇

釈迦如來降誕之佳辰、忝請

釈迦如來降誕之佳辰、忝請

本師堂上大和尚、就ミ新造

本師堂頭大和尚、就ミ新造

宝華王座、奉令

宝華王座、奉レ令

開堂為人者。

開堂為人者。

伝聞、師承有レ拠、名曰「伝燈」。始顯「法嗣」。是称「開堂」。密付自不レ彰、縉白必推請。伏請

堂上老師大和尚、拈出懷香、亘天熏烈。仰冀、

淨住堂頭大禪師、敲擊金槌、尽地告証矣。

謹疏

悚息咨目、堂頭和尚、慈悲容納。

謹疏

淨住江湖、諸位禪師、同共証明。

謹疏

正中元年四月八日、大檀那藤原家方。

謹疏

洞谷山開闢和尚、就于當山開堂。

拈本願疏。施捨我山、如吐唾沫、推請師承、開闢華

座、衲僧円通之手眼、外護重法之篤信、未拈出以前、

雖無人疑著、請首座禪師、為說破、普令入天更悉知。

拈両班疏。麟鳳龜龍、為瑞為祥、天上星地下木、字義炳

如目足。悅衆開宣、委悉請衆。⁶登座指法座云、此座高

廣、聖凡不通、仏祖超昇、興起宗風。

拈香。此一辨香、恭為

今上皇帝陛下万歳。聖壽無疆、等天地之蓋載、兆民有

賴、同陰陽之生成。

伝聞、師承有レ拠、名曰「伝燈」。始顯「法嗣」。是称「開堂」。密付自不レ彰、縉白必推請。伏請

堂上老師大和尚、拈出懷香、亘天熏烈。仰冀、

淨住堂頭大禪師、敲擊金槌、尽地告証矣。

謹疏

悚息咨目、堂頭和尚、慈悲容納。

謹疏

淨住江湖、諸位禪師、同共証明。

謹疏

元亨四年四月八日、大旦那藤原家方。

謹疏

洞谷山開闢和尚、就于當山開堂。

拈本願疏。施捨我山、如吐唾沫、推請師承、開闢華

座、衲僧円通之手眼、外護重法之篤信、未拈出以前、

雖無人疑著、請首座禪師、為說破、普令入天更悉知。

拈両班疏。麟鳳龜龍、為瑞為祥、天上星地下木、字義炳

如目足。悅衆開宣、委悉請衆。指法座云、此座高廣、

聖凡不通、仏祖超昇、興起宗風。

拈香。此一辨香、恭為

今上皇帝陛下万歳。聖壽無疆、等天地之蓋載、兆民有

賴、同陰陽之生成。

流布本 (大乘寺所藏本)

此一辨香、奉レ為二

当山大檀那子孫一族、洎諸堂檀越、供衆諸檀。伏願、松柏
寿永、新歴年不變之翠色、法僧寶惠、豐恒時不尽之供衆、
世世純熟善根、生生運載此乘。

此一辨香、奉レ供二養、今日降誕

本師釈迦牟尼如來、直下歴代諸祖、及遍參善知識。歷劫互
為主伴之法事、諸會助問答決疑之弘化。

此一辨香、七仏以前拈出畢、是凡是聖未レ知レ名、此箇平常
無生句、言前更不レ得覆藏。

焚奉レ為二

釈迦牟尼仏五十三代、永平第三世、加州楣樹林大乘開山、
先師介公徹通大和尚。香氣現前、覆育兒孫來、熏烈亘レ
天、氤氳穗烟去、以酬法乳之恩、遂就座。

淨住長老、槌一下曰、法筵龍象衆、當觀第一義。又槌一下。

師曰、若論第一義諦、為諸仏二為智母、為諸聖二為宗
家。亘レ古亘レ今、無レ人疑著、衆中莫レ有下解二商量底衲子上
麼。僧問、彩鳳銜來、棲庭玉樹、曇華開敷、世界方香。是

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

此一辨香、奉レ為二

当山大旦那子孫一族、洎諸堂旦越、供衆諸旦。伏願、松柏
寿永、新歴年不變之翠色、法僧寶惠、豐恒時不尽之供衆、
世世純熟善根、生生運載此乘。

此一辨香、供二養、今日降誕

本師尺迦如來、直下歴代諸祖、及遍參善知識。歷劫為作
互作主伴之法事、諸會助問答決疑之弘化。

此一辨香、七仏以前拈出事、是凡聖未レ知レ名、此ヶ平常無
生句、言前更不レ得覆藏。

爇奉レ為二

釈迦牟尼仏五十三代、永平第三世、加州楣壽林大乘開山、
先師介公徹通大和尚。香氣現前、覆育兒孫來、薰烈亘レ
天、氤氳穗烟去、以酬法乳之恩、遂就座。

淨住長老、白槌。

師云、若論第一義諦、為諸仏二為智母、為諸聖二為宗
家。亘レ古亘レ今、無レ人疑著、衆中莫レ有下解二商量底衲子上
麼。僧問、彩鳳銜來、棲庭玉樹、曇花開敷、世界方香。是

如何奇瑞乎。師曰、人人鼻孔、本無_二疑著_一。僧云、虎嘯風生、竜吟雲起。五位位別、君臣道合。⁸⁽¹²⁾所當_二此時節_一、釈尊降_二生藍園_一、和尚放_二出普光_一。釈尊即一手指_レ天、一手指_レ地云、天上天下唯我獨尊。今日普光、最初一句如何。師云⁽¹³⁾、法座類妙高_一、堂堂堆⁽¹⁴⁾露地_一。僧云、鴻音一震徹_二九地_一、四海⁽¹⁵⁾禪人尽得_レ聞。師曰、聞處無_レ響、声中有_レ耳。僧云、睦州和尚、開堂陞座⁽¹⁶⁾、問僧正、院主在麼。僧正云、在。又問、首座在麼。僧正曰、⁽¹⁷⁾在。又問、維那在麼。僧正云、在。州曰、三段不_レ同、收歸_二上科_一、余義文長、付_二在來日_一。便下座。此意如何。師曰、雲集包_レ山、水朝倍_レ海、文彩縱橫、請狀一齊。僧云宏智古仏曰、睦州和尚、十字打開、兩手分付。又如何会。師曰、遍界不_二曾藏_一、通身無_レ影像。僧云、古仏道處、與_二和尚道底_一、畢竟是同是別。師曰、老僧曾不_レ居_二同異中_一。僧云、截_二瓊枝_一寸是寶、碎_二栴檀_一片片皆香。師云、⁽¹⁸⁾天上星普輝、地下木等翠。僧云、當山有_二十境_一、一拳間於多方來衆前、思_二贊歎_一、許否。師曰、山谷高低、有_レ誰疑著。僧云、全身坐斷孤峰露、宿月乎。師云、坐_二斷千峯_一與_二萬峯_一、四海五湖收_二一目_一。僧云、方

如何奇瑞乎。師云、人々鼻孔、本無_二疑著_一。僧云、虎嘯風生、竜吟雲起。五位位別、君臣道合。所以當_二此時節_一、釈尊降_二生藍園_一、和尚放_二出普光_一。尺尊即一手指_レ天、一手指_レ地云、天上天下唯我獨尊。和尚今日普光、最初一句如何。師云、法座類妙高_一、堂々推_レ露地_一。僧云、鴻音一震徹_二九地_一、四海禪人尽得_レ聞。師云、聞處無_レ響、声中有_レ耳。僧云、記得、睦州和尚、開堂陞座、便問僧正、院主在麼。僧正曰、在。又問、首座在麼。僧正曰、在。又問、維那在麼。僧正曰、在。州曰、三段不_レ同、收歸_二上科_一、余義文長、付_二在來日_一。便下座。此意如何。師云、雲集包_レ山、水朝倍_レ海、文彩縱橫、請狀一齊。僧云宏智古仏云、睦州和尚、十字打開、兩手分付。又如何会。師云、遍界不_二曾藏_一、通身無_レ影像。僧云、古仏道處、與_二和尚道底_一、畢竟是同是別。師云、老僧曾不_レ居_二同異中_一。僧云、截_二瓊枝_一寸是寶、碎_二栴檀_一片片皆香。師云、天上星普輝、地下木等翠。僧云、當山有_二十境_一、一拳間於多方來衆前、思_二贊歎_一、許否。師曰、山谷高低、有_レ誰疑著。僧云、全身坐斷孤峰露、宿月云、山谷高低、有_レ誰疑著。僧云、全身坐斷孤峰露、宿月断_レ聲何更問。不_二踞猿嶺_一乎。師云、坐_二斷千峰_一與_二萬峰_一、

流布本 (大乘寺所藏本)

有_二松風_一 扌_二白月_一、更無_二垂語_一落_二便宜_一。集雲峯可_レ如_レ此歟。
 師曰、竜松起_レ雲、石虎嘯_レ風。僧云、般⁽²⁰⁾柴運_レ水是神通、
 入_レ谷登_レ峯般若風。運水峰又如何。師曰、洗_二清天_一天₁₁尚
 令_レ清、曹源一滴盈_二江湖_一。僧云、金粟如來那一著、大原今
 日拈将来。粟生原一種如何。師曰、金粟如來、大原化生。
 僧云、稻荷瑞現闍浮提、正命從前有_レ孰疑。稻荷瑞心如何。
 師曰、山前一片閑田地、幾度壳來幾度買。僧云、劫外露來
 香積飯、作_レ山作_レ塚₂絕_二飢情。向_二飯盛塚_一如何下_レ觜。師曰、
 香積一鉢飯、万人用未_レ尽。僧云、死中有_レ活六門開、五老
 如如冷坐來。埋死谷又如何。師曰、一花開五葉、結果自然
 成。僧云、一株卓立水雲邊、扢_レ地枝條影拄_レ天。掛鞋榎樹
 如何会。師曰、航海梯_レ山來底人、悉無_レ不_レ還_二草鞋錢_一。僧
 云、石烏解語無_二人聽_一、說聽同時自點頭。烏石解語、誰人知
 音。師曰、望州亭、烏石嶺、相見早晚休。僧云、石女翻袂
 離_二識情_一、木人和處是無生、巫女原又如何。師曰、石女歌
 舞、木人撫_レ掌、如_レ愚如_レ魯、似_二主中主_一。僧云、十境一
 蒙_二註破_一、洞山一滴大陽宗、十境相連水脈通、梵宇挿_レ雲深

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

四海五湖收_二一目_一。僧云、方有_二松風_一 扌_二白月_一、更無_二垂言_一
 落_二便宜_一。集雲峰可_レ如_レ此歟。
 師云、竜松起_レ雲、石虎嘯_レ風。僧云、般⁽²⁰⁾柴運_レ水是神通、
 入_レ谷登_レ峯般若風。運水峰又如何。師云、洗_二清天_一天₁₁尚
 風。僧云、般_レ柴運_レ水是神通、入_レ谷登_レ峯般若風。運水峰
 又如何。師云、洗_二清天_一天₁₁尚令_レ清、曹源一滴盈_二江湖_一。僧
 云、金粟如來那一著、大原今日拈将来。粟生原一種如何。
 師云、金粟如來、大原化生。僧云、稻荷瑞現闍浮提、正命
 從前有_レ孰疑。稻荷瑞心如何。師云、山前一片閑田地、幾
 度壳來幾度買。僧云、劫外露來香積飯、作_レ山作_レ塚₂絕_二飢
 情。向_二飯盛塚_一如何下_レ觜。師云、香積一鉢飯、万人用未
 尽。僧云、死中有_レ活六門開、五老如々冷坐來。埋死谷又
 如何。師云、一花開五葉、結果自然成。僧云、一株卓立水
 雲邊、扢_レ地枝條影拄_レ天。掛鞋榎樹如何会。師云、航海
 梯_レ山來底人、悉無_レ不_レ還_二草鞋錢_一。僧云、石烏解語無_二人聽_一、
 說聽同時自點頭。烏石解語、誰人知音。師云、望州亭、
 烏石嶺、相見早晚休。僧云、石女翻袂離_二識情_一、木人和_レ
 处是無生、巫女原又如何。師云、石女歌舞、木人撫_レ掌、
 如_レ愚如_レ魯、似_二主中主_一。僧云、十境一
 蒙_二註破_一、洞山一滴大陽宗、十境相連水脈通、梵宇挿_レ雲深

翠外、玉樓朱閣掛虚空¹²、是不_二當山那一境_一。師云、十境普光洞谷山、大陽盈目古今顯。師乃曰、妙靈廓通、普光赫奕、円照不_レ遺、有_レ誰疑著。見聞俱不_レ誤、受用已無_レ礙。人人尽有_二光明在、全身不_レ藏露堂堂¹³。不_レ待_二石烏龜解語、不_レ妨木上座聽証。從來不_レ屬知不知、誰道平常心是道。祖師授手伝心、諸仏印証密授¹⁴。不可_ニ以_レ事求、唯心証神契、乃命脈即通。超_ニ出有空量之表¹⁵、獨_ニ尊祖位際、妙德尊_ニ寰宇¹⁶、高明朗_ニ大虛¹⁷、方知道。一切處是你自己¹⁸、一切處是你光明、一切處是你坐道場、一切處是你作仏事。還_レ家穩坐時、如何會取去。置_ニ私子¹⁹良久。謝辭不_レ錄。適來舉問、睦州開堂陞座、問僧正²⁰曰、院主在麼。僧正云²¹在。又問、首座在麼。僧正云²²在。又問、維那在麼。僧正云²³在。州²⁴云、三段不同、收歸_ニ上科²⁵、余義文長、付_ニ在來日²⁶。宏智古²⁷、在_ニ円通_ニ日、就_ニ東林寺_ニ開堂、拳_ニ此因緣_ニ云、睦州和尚、十字打開、兩手分付。睦州開堂、円通為_ニ你諸人_ニ、点檢了也。円通開堂、諸人且道、畢竟你作麼生。相逢會有_ニ知音²⁸、何必清風動_ニ天地。睦州宏智、七通八達、到頭一句、疑著自絕。洞谷開堂、為_レ人又作麼生。拳山匝地兩知己、玉石

滴大陽案⁴、十境相連水脈通、梵宇挿_レ雲深翠外、玉樓朱閣掛虚空²⁹、是不_ニ當山那一境乎。師云、十境普光洞谷山、大陽盈目古今顯。師乃云、妙靈廓通、普光赫奕、円照不_レ遺、有_レ誰疑著。見聞俱不_レ誤、受用已無_レ礙。人人尽有_二光明在、全身不_レ藏露堂堂¹³。不_レ待_ニ石烏龜解語、不_レ妨木上坐聽証。從來不_レ屬知不知、誰道平常心是道。祖師授手伝心、諸仏印証密授¹⁴。不可_ニ以_レ事求、唯心証神契、乃命脈即通。超_ニ出有空量之表¹⁵、獨_ニ尊祖位際、妙德尊_ニ寰宇¹⁶、高明朗_ニ太虛¹⁷、方知道。一切處是你自己¹⁸、一切處是你光明、一切處是你坐道場、一切處是你作仏事。還_レ家穩坐時、如何會取去。置_ニ私子¹⁹良久。謝辭不_レ錄。適來舉問、睦州開堂陞座、問僧正²⁰曰、院主在麼。僧正云²¹在。又問、首座在麼。僧正云²²在。又問、維那在麼。僧正云²³在。州²⁴云、三段不同、收歸_ニ上科²⁵、余義文長、付_ニ在來日²⁶。宏智古²⁷、在_ニ円通_ニ日、就_ニ東林寺_ニ開堂、拳_ニ此因緣_ニ云、睦州和尚、十字打開、兩手分付。睦州開堂、円通為_ニ你諸人_ニ、点檢了也。円通開堂、諸人且道、畢竟你作麼生。相逢會有_ニ知音²⁸、何必清風動_ニ天地。睦州宏智、七通八達、到頭一句、疑著自絕。洞谷開堂、為_レ人又作麼生。拳山匝地兩知己、玉石

流布本 (大乗寺所蔵本)

全身百難碎。淨住長老白槌合掌云、諦觀法王法、法王法如是。槌一下、下座。

- 1 「牀」の下に「イニ (駒は「イニ」を「異有」に作る) 安
香台、異本有 (駒は「有」なし) 拄杖払子共入袋あり
- 2 「衆」の下に「異本有同、行者三拝」あり
- 3 「今」の右に「異本階下問訊下云、侍者燒香下座、問訊階下、両班問訊如常。但毎問訊鳴法鼓」(永駒は「鼓」を「事」に作る)。後淨住長老問訊云云あり
- 4 「集」の右脇に「異作衆」あり (駒はこの注なし)
- 5 「能」の右脇に「異本有南閣浮提大日本國」あり (駒はこの注なし)
- 6 「衆」の下に「異作衆請」あり (駒はこの注なし)
- 7 「風」の下に「異本無登座二字」あり
- 8 「所」の下に「異存以」あり (駒はこの注なし)
- 9 「尊」の下に「異有和尚」あり
- 10 「座」の下に「異有便」あり (駒はこの注なし)
- 11 「天」の下に「異作乞」あり
- 12 「境」の下に「異有乎」あり
- 13 「身」の下に「異作体」あり
- 14 「授」の下に「異本有不可以相取」あり

古写本 (大乗寺所蔵「秘本」)

一句、疑著自絶。洞谷開堂、為人又作慶生。拳山匝地両知己、玉石全身百難碎。淨住長老白槌云、諦觀法王法、法王法如是。槌一下、下座。

- 1 「傘」の右脇に「蘇旱切一雨具」あり
- 2 「枝」の右脇に「技イ」あり
- 3 「榎」の右脇に「古馬切山楸」あり
- 4 「案」の右脇に「宗イ」あり

位の下に「異有レ之」あり
「施」を「幡」を作る
「牀」を「状」を作る
「面」の下に「之」あり
「香」を作る
「者」を「香」を作る
「畢」を「竟」を作る
「門」を作る
「牟尼」あり
「恭」を作る
「異作レ事」あり
「所」の下に「以」あり
「右脇に「異作レ事」
「永」の右脇に「異作レ寿」
「無」を作る
「云」を「日」を作る
「堆」を「推」を作る
「海」の下に「之」あり
「座」の下に「便」あり
「云」を作る
「知」を作る
「日」を作る
「般」を「槃」を作る
「稻荷」の左脇に「鎮守神」
「柱」を作る

流布本 (大乘寺所藏本)

②駒は「一切處是你自己」なし

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

(62) 一日、問_二明庵主_一、涅槃經曰、打_三塗毒鼓_二、鼓声所_レ及_一、聞者皆死。未_レ審_一擊者若不_レ聞_一声也、又之有_二不死術_一麼。若然聞者皆喪。如何會。明云、泥牛闖_レ海。予曰、泥牛闖_レ海無_二消息_一。上座而今始隱身、善須_二保護_一。明翌日禮拝去。与_二隱山_一同參也。又問、天台韶國師曰、通玄峰頂話、如何會。句句說_二道理_一看。明云、通玄峰頂、脫徹不是、人間無_二第二人_一、心外無_レ法。物物頭頭不_レ覆藏、滿目青山沒蹤跡。予曰、恁麼說_二道理_一、些子雖是尚不_レ叶_二老僧意_一、若恁麼會、祇是了事僧、未還_レ家穩坐。恨縱會_二法眼宗_一、恐未_レ會_二洞下宗旨_一。三世諸仏、口掛_二壁上_一、猶有_二一人_一、呵呵大笑。識_二取此人_一、一生參覓事畢。有_レ人別云、曾不_レ露_レ頂。孤明独照、名狀未_レ得、作麼生拏。須_レ汝恁麼會。

有時、問_二溪侍者_一曰、戒體如何會。溪云、不識。師曰、金剛正體_二如何_一。溪云、不壞故。師曰、已_レ會_二無相戒德_一^④、善須_二護持_一。

有時、問_二道都寺_一、外道問仏話、如何会。道良久。師曰、大須_二保任_一。

又有時、問_二焞藏主_一、汝近日見處如何。焞云、國清天子令無_レ舌。師曰、黃閣簾垂、獨端居時如何。焞云、劫外誰敢稱_レ尊。師曰、礼拝了。

1 「明」の右脇に「覺明（駒は「覺也」）」あり

① 永_レ駒_一は「覺」を「學」に作る

② 駒_レは「溪」の右脇に「祖」あり

③ 駒_レは「體」を「体」に作る

④ 永_レは「德」の左脇に「體異ニ」あり

⑤ 駒_レは「道」の右脇に「尊」あり

(63) 同五月十六日、碩首座已下僧衆二十人、為_二總持寺_一僧堂開_二出山_一。

1 「同」の右脇に「正中元年甲子也」あり

(4) 五月十六日、碩首座已下僧衆廿人、為_二總持寺_一僧堂開_二出山_一。

(64) 同廿九日、始開_二僧堂_一、請_二両班_一。

(5) 五月廿九日、始開_二僧堂_一、請_二両班_一。

(65) 同七月七日、總持寺住持職、讓_二与碩首座峨山老_一。法衣

流布本（大乗寺所蔵本）

古写本（大乗寺所蔵「秘本」）

著_三法衣_二開堂、拄杖_一払子戒策、同付囑。即日新命、始東堂相看時、与_二興聖_一三尺竹籠。鉄尺定三尺二寸也。日本最初入室竹室竹籠、付_二授之_一。

三日間、吉事連續。七日夜、受戒人十五人、四部衆調、出家數多也。八日夜、又受戒人十三人、是四部衆調。九日、大般若經入寺。十日、新命以下衆僧転讀、洞谷開題、委曲宣說般若。十二日、帰寺。

1 「聖」の下に「異有自作」あり（駒はこの注なし）

① 駒は「挂」を「柱」に作る

② 永は「与」の右脇に「イニナシ」あり

③ 永駒は「人」なく、永は「戒」の下に「イ二人」あり

開堂着、用_二拄杖_一払子戒策、同付囑。即日新命、始東堂相看時、興聖自作三尺竹籠、鉄尺定三尺二寸、日本最初入室竹籠、付_二授之_一。

三日間、吉事連續。七日夜、受戒人十五人、四部衆調、出家數多也。八日、又受戒者十三人、是四部調。九日、大般若經入寺。十日、新命以下衆僧転讀、洞谷開題、委曲宣說般若。十二日、帰寺。

(66) 七月六日庚辰、額入寺。普光堂、最勝殿、香積院、選仏場、永光寺、洞谷山、妙嚴院。二枚未_二到来_一也。行能玄孫行房書也。一寺七堂額、一筆書、奇代不思議也。縱雖_レ為_二勅宣_一、一枚二枚不可_レ過、山門慶幸也。入寺日、有_二吉事_一事。所謂涅槃像、加賀国野市藤次、捨入安置。常樂我淨、

(7) 七月六日庚辰、額入寺。普光堂、最勝殿、永光寺、香積院、選仏場、妙嚴院、洞谷山。二枚未_二到来_一也。行能玄孫行房書也。一寺七堂額、一筆書、奇代不思議也。縱雖_レ為_二勅宣_一、一枚二枚不可_レ過、山門慶幸也。入寺日、即有_二吉事_一事。所謂涅槃像、加賀国野市藤次、捨入安置。常樂我淨、

四德波羅密^①、不慮円成。額入寺後、当^二七日^一七月十二日^二、瑩山帰寺。当^二九日^一十四日^二、作僧二人、法名明常³、雲性⁴。九日間連日、供養在^レ之。条々皆額下吉兆也。^②

- 1 「孫」の下に「異有^レ經朝嫡孫」あり
2 「日」の下に「異有^レ即」あり（駒はこの注なし）
3 「常」の下に「異作^レ淨」あり（駒はこの注なし）
4 「性」の下に「異有^レ掛搭」あり
① 永は「密」を「蜜」を作る
② 駒は「也」なし

(67) 正中二年乙丑四月十日、以^一円通庵主、任^二加州宝應寺房主職。²

- 1 「日」の下に「異作^レ十二日」あり
2 「職」の下に「異本云（駒は「云」）を「日」を作る」、以^一円通庵主、并侍者維那等、門^二送加州宝應寺房主職」あり

(68) 同十五日、結夏日入院。經^三日^一、聖僧安座。請^二淨住洪長老。

我淨、四德波羅密、不慮円成。額入寺後、当^二七日^一十二日^二、瑩山淨、四德波羅密、不慮円成。額入寺後、当^二七日^一十二日^二、瑩山帰寺。当^二九日^一十四日^二、作僧二人、明淨、雲性、掛搭。九日間連日、十方供養在^レ之。条々皆額下吉兆也。

(9) 同十二日、以^一円通庵主并侍者維那等、門^二送加州宝應寺坊主職。

(10) 同十五日、結夏日入院。經^三日^一、聖僧安座。請^二淨住洪長老。

流布本(大乘寺所藏本)

古写本(大乘寺所藏「秘本」)

(69) 同十一日、照円觀聽_二許戒法。同日、予問_二照姉公_一臨濟拳_二括話_一、如何会取。照良久。予許可曰、汝道處難_レ上_二紙墨_一。照礼拝去。即紹嗣_二戒法_一。

(8) 正中二年乙丑四月十一日、照円觀聽_二許戒法_一。予問_二照姉公_一臨濟拳_二括話_一、如何会取。照良久。予許可曰、汝道處難_レ上_二紙墨_一。照礼拝去。即紹嗣_二戒法_一。

(70) 同十四日、覺明庵主、持_二參布薩籌竹_一云、遠江國光明山寺篠竹也。捨_レ入當山常物_一。伝聞、永平寺布薩籌竹者、伊勢國鈴賀山篠竹云。予感_二遠國持來懇志_一、即打調作_二布薩籌_一者也。

1 「物」の下に「異作_レ住」あり

(71) 同年五月一日、松制禁曰、山僧自_二去壬子歲_一、占_二此山_一、始自愛_二山中有松樹_一、來歲歲其心、与_レ緣是深。然者、祝聖受戒立華外、不_レ可_レ折_二枝_一。嶺上谷底、不_レ論_二大小_一、堅可_レ護_レ惜之。諸知事、頭首、大衆、合山甲乙諸人、明悉知勿_レ違犯。開山瑩山、有_二一偈_一禁_二示_一之。

時正中二年乙丑五月一日、示。

松樹必成_二千古昌_一、枝枝葉葉尽_二蔭涼_一、須_レ令_三賓主堅_二根基_一、

洞谷声誉久挙揚。

三宝炳靈 五老証知

在判

(72) 同五月廿日、鎮西智侍者、遠訪風來、曹山重編五位君臣二冊、投子青語一冊、真歇了語一冊、将来。云、重編者、太宋者、太宋國未流布、況乎日本始見之、大可秘藏。非其人者、不見者、不可見、為家重寶。投子語、真歇語者、開印板可流布。

「可」の下に「異有令」あり

- ① 永駒は「偏」を「偏」を作る
② 駒は「太」を「大」を作る
③ 駒は「可」の下に「令」あり

(18) 次五月廿日、鎮西智者、遠訪風來、曹山重編五位君臣二冊、投子青語一冊、真歇了語、将来。重編者、太宋未流布、況乎日本始見之、大可秘藏。非其人者、不可見、可為家重寶。投子語、真歇語者、開印板可流布。

(12) 遺跡諸寺之用心置文一通（縦目加）

(73) 同廿三日、發兩願曰、生生世世、化度利生、至等正覺、乃至有過遠罪、微不能消。以為我珍宝、救濟諸衆生。別願一切不啻管之、雖是操行、此兩願者不私。一願者、於下發菩提心於生生、本師寶慶円和尚所上。

(13) 正中乙丑五月廿三日、發兩願。生々世々、化度利生、至等正覺、乃至有過遠罪、微不能消。以為我珍宝、救濟諸衆生。別願一切不啻管、雖是操行、此兩願者不私。一願者、於下發菩提心之生生、本師寶慶円和尚和

流布本 (大乘寺所藏本)

諸共、為_ニ慈氏菩薩証明₂。之故、不_レ顧_ニ身命₁、生生世世、可下如_ニ本願_ニ護持_上。一願者、於_ニ今世悲母懷觀大姉、最後遺言、領納發願、是亦女流濟度之菩薩也。不_レ可_レ敢欺、任_ニ遺命₁、可_レ護_ニ持_ニ之₁。三世諸仏、歷代祖師、及首楞嚴經、一切諸經、加_ニ護擁_ニ護₁、予金剛_ニ願心₃₍₃₎。叶_ニ仏意₁者、必可_レ感_ニ靈夢₁。思念打眠、即夜曉天、感夢云、有_ニ隨身所持旧衲袈裟₁、久不_ニ搭著₁。今欲_ニ搭著_ニ披見者、有_ニ鼠巢₁、以_ニ牛糞馬糞、及馬尾人毛等、諸不淨塵穢₁、汚_ニ染_ニ之₁。即打振捨了著用。誠奇夢瑞夢。本願新成瑞相也。仏祖感応、証_ニ明両願者也₄。

- 1 「於」の下に「異作レ之」あり (駒は「異本有レ願」) あり
- 2 「明」の下に「異有レ発」 (駒は「異本有レ願」) あり
- 3 「心」の下に「異有レ願」あり
- 4 「也」の下に「異本此文初云 (駒は「云」) を「曰」に作る、遺跡諸寺之用心置文一通、繼目加判形」あり
 - ① 「之」の右脇に、(永)は「イニナシ」、(駒)は「異本ナシ」あり
 - ② 駒は「棧」を「桿」にする
 - ③ 駒は「心」の下に「願」あり

(74) 同廿四日、先師辨和尚月忌諷經。帰後記_レ之。

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

尚所_上、諸共、為_ニ慈氏菩薩証明₁。發_レ之故、不_レ顧_ニ身命₁、生々世々、可下如_ニ本願_ニ護持_上。一願者、於_ニ今生悲母懷觀大姉、最後遺言、領納發願、是亦女流濟度之菩薩也。敢不_レ可_レ欺、故任_ニ遺命₁、可_レ護_ニ持_ニ之₁。三世諸仏、歷代祖師、及首楞嚴經、一切諸經、加_ニ護擁_ニ護₁、予金剛_ニ願心₁。願叶_ニ仏意₁者、必可_レ感_ニ靈夢₁。思念打眠、即夜曉天、感夢云、有_ニ隨身所持旧衲袈裟₁、久不_ニ搭著₁。今欲_ニ搭著_ニ披見者、有_ニ鼠巢₁、以_ニ牛糞馬糞、及馬尾人毛等、諸不淨塵穢₁、汚_ニ染_ニ之₁。即打振捨了著用。誠奇夢瑞夢。本願新成瑞相也。仏祖感応、証_ニ明両願者也。

- 1 「生生」の右脇に「今生イニ」あり
- 2 「心」の下に「異有レ願」あり
- 3 「也」の下に「異本此文初云 (駒は「云」) を「曰」に作る、遺跡諸寺之用心置文一通、繼目加判形」あり

(14) 同廿四日、先師辨和尚月忌諷經。帰後記_レ之。

(75) 同七月二日、当山住次尊宿、先瑩山法嗣中、揃_二嗣法臘次_一、可_二住持興行。吾有_三四門人_一、若又有_三一人孫弟法嗣_一歟。又住持闕如者、六兄弟中、勵_レ力束_二箇、興化利生。是山僧現存悉知、尽未來際、法孫相続者、可_レ依_ニ各人興法利生。唯願、法孫歷代、代_レ弘揚_レ化、化_レ化不_二斷絕_一矣。

明峯 無涯 峨山 壇庵 孤峯 珍山

1 「矣」の下に「異本云（駒は「云」）を「曰」に作る）、正中己丑初秋二（駒は「三」ナシ）日記あり

(76) 同七月十六日、感瑞夢_一曰、或人一尺余計深箱、在_二清水_一、水上如_三金鈎_一文字浮_二。云、室岩殿斗谷、同清流也。覓後悟曰、室少室也、岩殿石頭也、斗谷洞谷也。三人知不_レ別、同清流。是吉徵也。

① (駒は「在」を「有」) を作る

(77) 同廿八、溪都寺、道都寺、相_二伝戒法_一。同日夜半、明兄附法、相_二伝坐具_一。是予末後法嗣也。即曉天出_レ寺、往_二雲

法_一。同日夜半、明兄附法、相_二伝坐具_一。是予末後法嗣也。即

(15) 当山住次尊宿、先瑩山法嗣中、揃_二嗣法臘次_一、可_二住持興行。吾有_三四門人_一、若又有_三一人孫弟法嗣_一人。住持闕如者、六兄弟中、勵_レ力束_二箇、興化利生。是山僧現存悉知、尽未來際、法孫相続者、可_レ依_ニ各人興法利生。唯願、法孫歷代、代_レ弘揚_レ化、揚_レ化不_二斷絕_一矣。

正中乙丑初秋二日記。

明峰 無涯 峨山 壇庵 孤峰 珍山

1 「各人」の右脇に「或作_ニ各々」あり

(17) 同七月十六日、感瑞夢_一云、或人一尺余計深箱、在_二清水_一、水上如_三金鈎_一文字浮_二。云、室岩殿斗谷、同清流也。覓後悟云、室少室也、岩殿石頭也、斗谷洞谷也。三人知不_レ別、同清流。是吉徵也。

『洞谷記』二種对照 二十一(一) (河合)

流布本 (大乘寺所藏本)

州。

曉出_レ寺、往_レ出雲國_一。

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

(78) 洞谷讓与御状曰、本紙在「加州大乘寺」。

附_二与洞谷全座、於素哲首座明峯老_一。

靈山一会座尚暖、附_二与明峰 永興繁。

洞谷綠松綠弥奧、雲居懸記水泓灣。

正中二年仲秋初八日

洞谷讓附 紹瑾 在判

(79) 洞谷門下僧祿御書曰、

素哲、予遺跡之僧祿也。喻如_二王道行事、管_二祖意、永劫是也。

正中二年八月一日 永光紹瑾 在判

(81) 洞谷門下僧祿御書云、

素哲、予遺跡之僧祿也。喻如_二王道行事、管_二祖意、永劫是也。

正中二年乙丑八月一日 永光紹瑾 在判

(80) 孝服可_レ著人人次第

素哲 白衣白衫、。 智洪 白衫、白對。 紹碩 同。 至簡 同。 尊道 白
白。 素溪 同。 忍戒 白背_一。 慧球 同。 明照 白對_一。 源照 白背_一。
紐 麻衣。 子敏 生麻衣。 平交僧尼 皆白紐。

(19) 孝服可_レ着人々

素哲 白衣白衫、。 智洪 白衫、白紐。 紹碩 同。 至簡 同。 尊道 白
白。 素溪 同。 忍戒 白背_一。 慧球 同。 明照 白對_一。 源昭 白背_一。
紐 麻衣。 子敏 生麻衣。 平交僧尼 皆白紐。

(81) 開山御遷化

正中二年八月十五日夜半、囑門人云、予化緣已尽、泥洹時至。則沐浴如常、鳴鐘衆集曰、念起是病、不続是棄、一切善惡、都莫思量、纔涉思量、白雲万里。書偈曰、自耕自作閑田地、幾度壳來買去新、無限靈苗種熟脫、法堂上見挿鍬人。投筆而終。闍維収設利羅。而建塔寺之西北隅、其塔所号伝燈院。閱世五十八、坐夏四十六。勅謚賜仏慈禪師。

(82①) 新住持入院

先住告退、或遷化時、如當山者、門徒中先開山法嗣内、以嗣法次第、或先出世、或當山勤勞、或若開堂人、若開山付授人、可定住次。嗣法人人、商議可定。若開山法嗣、皆雖住尽、孫弟法嗣中可揀器。若世及末世、法嗣人如レ不得、開山小師中門派僧中、択知因識果人、可補住持。五老峰為尊重、門派実人可択之。若請他所住持等者、或有開山讓与状者、法嗣人、大檀那、両班、及

流布本 (大乘寺所藏本)

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

衆状、面面各作^ニ一通疏、以^ニ專使都寺、若監寺書記、若藏主衆中器量人^一請レ之。專使到来者、知客維那監寺等迎接、先令^ニ報知^ニ新命堂頭、及諸前資勤旧中、新命内見^ニ書状^ニ別^ニ押レ日、行^ニ引座仮事^ニ所謂、主人鳴^ニ鼓、陞座報^ニ事因由^ニ再鳴^ニ鼓、新命陞座。各拈^ニ疏法語、指^ニ法座^ニ說法、告辭移^ニ客位^ニ。主人両班、各送^ニ寮、問訊礼拝。既欲^ニ出^ニ門、當首座等者、在^ニ門首^ニ、小參辭^ニ衆、拈^ニ上寮^ニ接^ニ專使^ニ。出寺日、專使設^ニ斎行饌、主人両班等、点心、薬石、大座湯等、殷重礼而可^ニ敬重^ニ也。若当住者、維那知客監寺等、先報^ニ主人^ニ、主人受^ニ請者、兼日打調事物等交割。知事^ニ押レ日鳴^ニ鼓、告退^ニ辭^ニ衆、退鼓三下。陞座以前、拈^ニ疏報^ニ衆、両班侍者等、兼日商議。隨^ニ從首座等入院者、主人両班大衆、門送在^ニ門首^ニ、茶湯礼送告別。

新命、選^ニ吉日^ニ入院。隔夜止^ニ宿山下寺院^ニ、両班大衆、夜前問訊、或大衆隨意問訊、通衆必之不^レ下不^レ妨、新命不^レ正^レ之。当日新命、乘^ニ轎輿^④入寺、両班大衆、門外両行雁立迎待。以外為^レ上、新命下^ニ轎輿^ニ、指^レ笠先路而、

旗子一對 次長燈一對又名行燈、行者所役 次拄杖 入袋

次竹籠⑤入袋 次払子入袋、或 次戒策

次錫鉢 次行鼓 次衣鉢 次錦旛 一對

次坐具香合 次茶湯兼排座位照牌、新両班皆客位⑥

若有二先師讓与遺狀、入三全函二而立一轎輿前、兩班深問訊、而迎二接新命、到二門首、拈一拄杖一法語。先在二客位一、知事行二茶湯一、自二西廊上一入三僧堂、燒三香聖僧

前一、大展三拜。維那引令二巡堂一匝、了著二主人位一。兩班大

勤旧、進前兩展三拜。內堂外堂暫到、皆同兩展三拜。次

入三大殿、燒香法語、了札三拜。次入三土地堂、燒香法語、若無。

次入三祖師堂、燒香法語、若無、札三拜。次上三方丈、

法語倚二主位一、知事行札、獻三茶湯點心。鳴三法鼓、上堂、大

衆集定如二常。法座左辺設二小椅一、為二拈疏一、右辺構二小椅一、

白槌座位。次拈疏次第、如二開堂時。次主人指法座、法語。

了拈香次第、先祝聖、次檀越、次嗣香。

主人著座說法如二常、禪客問答、了主人下レ椅、當面問訊而

下レ階。次人事之次第、

知事、頭首、大衆、侍者、小師、尼衆、沙弥、童行、行者、

人工、各各礼賀。法堂上脇露柱、貼二礼數榜。

流布本 (大乗寺所藏本)

古写本 (大乗寺所藏「秘本」)

① 駒は「次」を「持」に作る
 ② 永駒は「監」を「鑑」に作る
 ③ 永駒は「斎」を「齋」に作る
 ④ 永駒は「轎」を「橋」に作り、永は右脇に「轎乎」あり
 ⑤ 駒は「籠」を「篋」を作り、下に「異作籠」あり
 ⑥ 駒は「位」の下に「也」あり

(82) 陞座罷礼賀次資

一、檀那再拝、若戒者搭袈裟

二、知事三拝

三、首座兩展

同

四、西堂法眷触礼三拝、若上法眷者只問訊而已

五、侍者小師大展三拝

六、尼衆

七、沙弥童行九拝

八、行者各各九拝

九、人工唱應再拝

次僧堂喫斎、斎罷行茶。知事行礼如四節。次頭首行礼茶

榜、知事茶狀、頭首用之茶榜。

就雲堂煎点一中

特為一

新命堂頭和尚一

聊旌山門陳賀之儀一

伏請首座大衆光伴

今月日 庫司比丘

某甲等敬白

新命住持、又就雲堂一大座煎点、特為首座諸知事、光伴榜

云、

新命堂頭和尚、今晨齋退

就雲堂煎点一中

特為

首座大衆 聊謝山門陳賀之儀

俯請

諸知事光伴

今月日 侍者 某甲 承順拝白

知事礼後、頭首礼有レ之。頭首礼後、新命礼有之、或無之。
之。知事主人牘、必七行一寸計文字也。頭首者用レ状、有
殼漏子、八寸也。

首座比丘 某甲

今晨齋退就

雲堂煎点一中

特為

流布本 (大乘寺所藏本)

新命堂上大和尚 聊旌

山門陳賀之儀 伏請

諸知事泊

諸頭首 大衆光伴

今月日 首座比丘 某甲 敬白

穀漏子云

悚息拝請 新命堂上大和尚降下 新戒首座比丘 某^③謹封

若新首座者、無^ニ此礼状^ニ、必九行文字、五分計也。
不可是儀也。

當日若次日、晚間薬石行く之。當日晚有^ニ小參^ニ、委細謝賀。
檀那及知事頭首等行礼者、次次日也。

當日^ニ斎籠^①、若次日粥籠^ニ、都寺具^ニ寺記状^ニ、當預安^ニ排卓子^ニ、
筆硯及寺記一封^ニ、仍備^ニ状子^ニ、展^ニ於卓上^ニ、住持看^レ封^ニ、頭首^ニ
都寺^ニ、開^レ封呈過^ニ。住持狀式、無^ニ可漏^ニ。

當寺庫司比丘 某甲 等

寺記一顆 錄敷地等^ニ、御下知以下什通

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

印函一包

聖教目錄都合大小什合

右謹申納

新命堂上大和尚 伏候

慈旨 謹狀

其^⑤年月日 当寺庫司比丘某甲等狀

先住封、若時兩班、或大勸旧等合封也。

次半齋時、都寺具^①請齋狀子、懷香詣^⑥方丈^②請^③齋^①。庫司行者、安排禱拝狀子、都寺炷香、取^④狀子^⑤呈、禮如^⑥請茶札^⑦。行狀式云、

當寺庫司比丘某甲等

右某等啓取 今晨午刻

就^⑧雲堂^⑨

特備水役 祇迎伏望

尊慈俯賜

隆重 謹狀

某年月日 当寺 庫司比丘某甲等狀^{⑦⑧}

可漏子

流布本 (大乗寺所藏本)

古写本 (大乗寺所藏「秘本」)

端状拝請 新命堂上大和尚禪師⁽⁹⁾ 当寺庫司比丘某甲謹封

① 永駒は「斎」を「齋」に作る

② 駒は「月」の下に「今」あり

③ 駒は「首座比丘某」を「比丘首座某甲」に作る

④ 駒は「儀」なし

⑤ 永駒は「其」を「某」に作る

⑥ 駒は「詣」を「請」に作る

⑦ 駒は「某」の右脇に「イナシ」あり

⑧ 永駒は「甲」なし

⑨ 永駒は「尚」の下に「大」あり

(82) 接尊宿

或入院長老、若他方尊宿、若他山入院路次順礼長老、入院時、本寺両班大衆、及主人以下大衆、山門出迎。出迎接新住持人、接_ニ入上寮_ニ令_ニ安下_ニ。若名徳長老、道旧長老、及新命住持者、本寺主人、先上堂、挙似請_レ為_レ人。再鳴_レ鼓、令_ニ陞座説法_ニ。両班大衆、侍者小師、詣_レ寮礼拝、問訊可_ニ殷重。

(82④) 接官

或勅使、若國史及檀那、新入院時者、若勅使國司者、主人率兩班大衆、山門迎接、接三入客位、請三方丈、喫茶喫湯点心等、隨時宜。若故入院者、兼日用意。敬檀那、如^レ仏故、有^レ是儀。或諸方名徳入寺時、隨^レ人可^ニ敬重礼勤^レ也。仏法^レ董^①礼故也。

① 永^レ駒は「董」を「薰」に作り、永^レは右脇に「董乎」あり

(82⑤) 引座

山中首座等中、受^レ他山住持請^レ時、本寺住持上堂、拳^ニ白事由下座。鳴^レ鼓即時開口、為^レ人賞^ニ管新出^レ也。

(82⑥) 馳書

或法嗣人、住^ニ他山^ニ時、以^ニ專使^レ遣^ニ禮賀^レ、或法嗣人、住^ニ他山^ニ時、以^ニ專使^レ為^レ報^ニ本師恩^ニ、捧^ニ書礼^レ。之云^ニ「馳書」^レ也。或本師逝去^レ、又遣^ニ書。之云^ニ「遣書」^レ也。俱鳴^レ鼓集^ニ衆、在^ニ法座上、宣開示^ニ衆。以^ニ重^ニ法儀^ニ也。若遣書者、上堂拳^ニ哀、

流布本 (大乘寺所藏本)

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

著孝服、一周忌中、不祝聖上堂諷經也。

① 駒は「遣」を「遺」にする

(82⑦) 住持出入将息

住持依レ事、出レ山帰レ寺、及病暇將息、而始対レ衆時、必上
堂示レ衆。若行点茶点湯等是礼也。謝病中一衆恩問^①也。
若一夏一冬、及至一年兩年、受他所請時、上堂、請暇委
曲報示両班大衆、留守寺院事也。

① 駒は「問」を「門」を作る

(82⑧) 首座代_ミ主人上堂

住持、或受_ミ人天請_ミ他游時、及病暇等時、為レ不レ闕_ミ祝聖、
上堂也。近來者、依レ人無_ミ此儀。

(82⑨) 住持出入帰

凡住持出入者、當_ミ隨意。即令_ミ行者伝_ミ說維那首座、及頭首
知事大耆旧等、如_ミ下経_ミ一兩宿_ミ而帰_ミ上。不必伝_ミ說、如住持

受三家數日月請歸寺時、堂司、當掛接和尚牌。鳴大鐘、大衆於三門首接歸方丈、住持燒香、與大衆問訊。大衆退散、知事頭首大耆旧、少話而退。次參頭、領衆行者札拜、如住持受大衆接歸方丈、移時當巡寮。如下住持到三門、與大衆問訊、或免^レ到方丈、即令下行者請大衆歸堂、依鉢位立定。住持入堂、燒香巡堂一匝而出。或出入頻數多見檀越歸時、可領令下行者歸寺伝語。不必動^レ衆、或出久帰時、就臨時、經入僧堂、伴衆食畢、掛鉢時、令^レ行者報云、

堂頭和尚、巡堂問訊、住持即燒香巡堂而出。或燒香聖僧、大衆三拜、巡堂一匝而帰。入聖僧前、而與大衆問訊而出。住持若久病拙^レ將息者、平愈對衆時、陞座謝大衆慰問。或巡堂禮謝、或喫茶謝賀、或兩班耆旧、請^レ方丈喫齋^①點心。

① 永^レ駒は「齋」を「齋」に作る

(82 ⑩) 住持現存譲^レ与付弟^二等事
或新命他山住持者、兼日以^二當寺首座都寺監寺書記藏主等、

流布本 (大乘寺所藏本)

及至前資勤旧專使、令持書記。故召請新命、先入彼寺、專使会^一知事頭首單僚等^一。恭言、

先師有「馳書」為住持付与^一、某甲等專使來參、大眾同共礼請。知事先內稟、後與^一專使兩班單僚等^一同上申。覆^一承諾^一者、次日、上座薰香宣^一開馳書、惶恐伏命專使、事^一辨大齊^③、行襯默茶。次日、主人請^一專使、点心喫茶。專使兩人者、設^一出頭座、首座相伴、諸知事頭首耆旧、齊^③請置照牌^一。若因位侍者兩人行禮。次日、辭^レ衆上堂、或以讓^一与本寺於他人^一、或又置^一留守。若報^一檀那、隨時斟酌、隨^一專使^一入寺直參。縱雖^一不^一伏命^一、不^一參拜^一而奉辭是無禮、讓^一儀隨^一人不^一一樣^一。然而先師在^一大乘寺、讓^一與時、拵^一吉日^一、在^一丈室展三拜云、令^一法久住、利^一益人天。或退院上堂、次報^一讓^一與由^一、即有^レ疏請^レ之、若首座等、未出世人者、法衣度^一與之儀可^レ有^レ之。先法衣付囑人、祇^一上堂白^レ鳴、退鼓三下、倚^一東堂位^一。再鳴^レ鼓、新命入室、拈疏等委^一先入院儀。陞座罷、人事了入^一僧堂、燒香大展三拜。後大衆送^一入方丈、両展三拜、就^一方丈^一、先点心喫茶、先住就^一東堂位^一、新命侍

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

者行礼、必請^二坐具、先問^二訊東堂。次知事頭首大衆、先点湯、次点心、次点茶。罷、新盟率^二大衆、送^二入僧堂、両展三揮。

① 永駒は「監」を「鑑」に作る

② 永駒は「恭」を「茶」に作り、右脇に「恭乎」あり

③ 永駒は「斎」を「齋」に作る

(82) 普請赴^二斎等事

近隣如レ赴^二斎請^一者、一衆著衣托鉢等赴、威儀祥序¹、不得^二參差、令レ人生^三信敬、如^二遠所請^一者、一衆不^二等赴、若如^二一衆請^一者、諸堂閉却、直序置之。或如^二諸檀死亡送喪^一者、除老病不堪^二堪^一行歩、皆可^二等赴、諸堂各置^二直序^一。近來者、榦等兼用意、不^二托鉢^一之無^レ妨、一衆普請者、鳴^二堂前鐘^二三会、而三門衆会、一衆揖問訊而等赴、不得^二前後^一。已如^二檀那家^一者、檀那下迎接者、一衆普揖入^レ家、是常儀也。不^レ得^二語笑点頭、左右観見^一、尤可^レ表^二信敬^一、是仏儀也。普請作務可^二等出^一、是僧儀也。別請者、雖^レ任^二施主意染^一、非^二七仏儀^一。有揀^二別衆僧咎^一、可^レ隨^二訓誨^一者、知事可^レ教^レ之。

流布本（大乗寺所蔵本）

如レ聴ニ法説參禪問道者、別請無レ妨、不レ準ニ望副業、順ニ七
仏儀。望ニ次第請者、維那次第可ニ排請、客僧可ニ排遣、是
僧儀也。常住僧計受請者、与畜生ニ無レ異、仏語可レ恐、巡
請者無ニ親疎、供養故、功德為レ勝、知事須知レ之、前西堂儀
礼喪依レ人有ニ輕重。如ニ彼寺ニ者、有レ志人送行無レ妨。寺院
者、用ニ送客儀矣。

住持遷化喪記、有ニ別紙。

1 「祥」の右脇に「詳乎」あり（駒はこの注なし）

① 永駒は「斎」を「斎」に作る

古写本（大乗寺所蔵「秘本」）

（82）住持遺物商量等事

住持遺物、平生分付外、喪主守ニ遺命ニ請レ之、諸事喪主管
領、両班及小師、与議評定分ニ三分、一分入ニ常住、一分小
仏事等布施、一分共奉大衆以下布施、中陰及七日以下、節
節仏事等者、嗣法人小師等、隨ニ豊儉ニ可ニ勤仕、東堂遷化
儀与ニ當山遷化ニ如也。西堂遷化者、無ニ遺命ニ者、必之
不レ加ニ助常住、只商量可ニ支破、都寺首座遷化時者、十分

一、加助常住、除遺命旨^一支破。一等商議。平僧遷化遺物、唱得錢支破。兩商議、隨時可配分⁽⁵⁾、如古儀有^一余力、加助常住^一通例也。商議大概最初龕前、靈供自公界錢別。送亡日、唱衣日、抬骨日、入骨日、隨^レ力或設粥、或設齋。小仏事、鎖龕、拳龕^{入骨調経}、送亡共奉、唱衣行者、擔骨行者、或人工、已上均等排分。擔龕人工^{一倍}、舍維人^{一等}、若亡僧遺衣等排分、擔龕一等、直序^{悉隨分}沙弥童行行者^{僧三}、人工火客^{行者三}、諸堂灯油、仏殿、僧堂、後架、東司、庫下、延寿堂、為^一亡僧增長福智、供養之。龕用途并喪具一草一木、勿^レ費^一常住物^一。將水錢、又可^レ恐^レ之^一。若有^一全力^一加助常住^一、未來福業也。極小一百以下、唯行^一設粥^一而已。依衆多少。一貫文已下、之如^レ不^一支破得、須^一龕用途并^一加齊設粥⁽⁶⁾而已。

- ① 駒は「平」を「乎」に作る
 ② 永は「議」を「義」に作り、右脇に「議乎」あり
 ③ 氷は「共」を「苦」に作り、右脇に「共乎」あり
 ④ 駒は「議」の下に「也」あり
 ⑤ 駒は「配分」を「分配」を作る
 ⑥ 永駒は「斎」を「齋」を作る

流布本 (大乘寺所藏本)

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

(82) 吉凶^① 斋商量

如^二臺^②石一貫、無^二雜事。斎者雜用二百文錢、可^レ排^二分諷經
錢、可^レ半斎^①諷經。五斗五百已下者、粥罷諷經次、大悲呪一
遍、可^レ回^二向亡者。一石一貫已上者、斎^①時作^レ疏、令^レ宣^二讀
維那^一、後銀錢疏等^レ之、行^レ香可^二排分^一、斎僧錢施主自不^レ
行^レ香、知事代行^レ香行^レ襯。^④

上堂講戒、隨^二施主所^レ請、又寫經諷經、如^二別請者、施物
限^二經衆^一行^レ之。但典座者、不^レ可^レ入^二經衆^一。直堂者、維那
代置^二別人^一、而可^レ令^二出仕^一。不^レ論^二病僧輕重^一、寫經者、可^レ
奉^二人數^一排分^一、維那所管也。必之不^レ令^二蒙^三通衆^一。如^二隨意
諷經者、維那題^二名字^一可^二回向^一。奉^二排經排襯^④、如^二一處讀
經同見^二面、襯施主人寺施財持參、施^二主人及僧衆^一。各各排
分、非^二維那知事所管^一。如^二施財送^レ寺者、讀經寫經、說法啓
白、隨^二送文文章、兩班商議、可^レ行^二仏事^一、無^二別請^二文章^一、
只^二如^①斎料^一、奉^レ送者、可^二斎議^①商量^一。若如^二祈禱寫經讀經
請^一者、除^二出仕僧數^一、不^レ論^二輕重^一、不^レ可^二病僧行^レ襯、如^二

諷經錢者、不論經呪誦不誦、可一等行懶。

- ① 永駒は「斎」を「齋」に作る
- ② 駒は「壹」を「二」に作る
- ③ 駒は「銀」を「餌」を作る
- ④ 駒は「襯」を「懶」を作る

(82)
(14) 斎僧錢商量事^①

仏殿三尊 祖師一尊 土地一尊 聖僧 多聞 塔婆一尊
経蔵一尊 円通觀音 僧衆什員 民衆戒牌
人數 沙弥童行什員
各行僧 人工什員行者三分
一行之 諸聖懶各堂灯油。

- ① 永駒は「斎」を「齋」に作る

(82)
(15) 設斎下行商量

如壹石已上、別不供養者、円通人数雖隨時、不可過三十衆、聖僧一尊、下部一人加レ之。

客來僧尼什員、最初火客一人、如一日斎粥余残者、可加助常住塩酢。當寺常住物、未現前之間、一日斎料一日受用外者、可助供養常住塩酢。縱雖二石三石、一日仏事時、入來非人乞者、修行者、遠來乞求諸人、不顧他事

流布本 (大乗寺所藏本)

後日、広可^ニ供養。縱雖^レ不足^ニ僧供[、]常住物一粒不^レ可供^ニ養之[。]如^ニ五斗一石者、一日斎志也。^{有^ニ余残^ニ}者、不^レ顧^ニ後日、斎粥可^レ加^ニ助塩[、]酢[。]

① 永^レは「斎」を「齋」に作る

② 永^レ駒^ハは「斎」を「齋」に作る

③ 永^レ駒^ハは「斎」を「齋」に作り、駒^ハは「齋」下に「時」あり

(82 16) 看經之法

施主請^ニ看經^者、如^ニ祈禱看經[、]就^ニ大殿^ニ行^レ之。仏前安置[、]經[、]主人燒香、礼三拜而著座。行者引^レ經[、]普同合掌頂戴[、]揚^レ声[、]詵経^{。或有^ニ疏、書^ニ看經願旨[。]経終、維那詵^ニ仏前[、]設^レ架銀錢与^レ疏燒^レ之。銀錢疏等、隨^ニ便宜[、]仏前安置^{。詵経}際[、]供^ニ司行者[、]縵声打^レ鑼[、]声不^ニ斷絕[。]若就^ニ僧堂^ニ看經者[、]施主座後門右安^ハ之。唄師座左安^レ之。主人燒^ニ香聖僧[、]礼三拜[、]大衆普同著座。唄師先引^レ声唱^レ唄[、]云何唄也。或只引^レ経後[、]大衆普同合掌[、]唱^ニ聞経偈微音[。]施主胡跪炉行香[、]主人前[、]首座前[、]毎^ニ板頭^ニ問訊巡堂[。]次詵^レ疏[、]燒^ニ銀錢[。]}

古写本 (大乗寺所藏「秘本」)

待^レ斎時^①、或行者行^レ懶。又經始終、只燒香礼拝。經中證明聽経、若就^ニ經藏^一看經、揚^レ声讀經、細文校看無^レ妨。主人燒香、及施主燒香、如^ニ僧堂大殿、便宜處設^ニ施主座。或梵唄打鑿^ニ、大衆普同礼拝。什經抽出。讀經者、大殿僧堂是儀同也。一大藏經転読者、必就^ニ經藏^一、排日排經。若又主人両班、燒香礼拝、及至施主燒香礼拝、一転輪藏野転經也。又只燒香巡堂、經藏転經也。亦古人請転大藏經、僧下^ニ禪牀、一匝云、転半提畢。施主云、我請^ニ転一藏、恨只^ニ転^ニ半藏。此外又有^ニ転誦。下座。又手全提又半提。此外又拋坐。良久曰、又是半提。此外有^ニ全提經、難^ニ記録。

仏祖屋裏^④、有^ニ如^レ此転經。隨^ニ施主所請、有^ニ種種転經、勿^ニ認「格式」。或依^ニ寺院旧規、或依^ニ主人指規。

- ① 永^ニは「斎」を「斎」に作る
- ② 永^ニは「時」を「特」に作り、右脇に「時乎」あり
- ③ 駒^ニは「牀」を「定」に作る
- ④ 駒^ニは「裏」を「裡」に作る

(82)
(17) 檀那忌

如^ニ本願^ニ者、年忌太夜諷經、就^ニ賓位^ニ行^レ之。當日、半斎^①諷

流布本 (大乗寺所藏本)

古写本 (大乗寺所藏「秘本」)

經、子孫不_二當辨_一、為_二本寺經營_一、可_レ修_二年忌_一。知事供_二茶湯_一。本願忌者、月忌諷經修_レ之。其余檀那、年忌計修_レ之。如_二都寺首座遷化_一者、自_二公界_一祭_レ之。若依_レ入侍者又祭_レ之。若如_二東堂逝去_一者、如_二住持_一。本師者、如_二当住遷化_一。如_二平交尊宿_一者、主人必為_二喪主_一、司喪事、當山先住公界之禮也。他山西堂、於_二當山_一円寂者、依_レ人主人兩班、及大勸_二舊大眾祭_一之、無法堂入之儀。若別寮、若延壽堂、而逝去者、只所_二隨分_一、敬重供養也。若他山堂頭、有_二當寺_一圓寂者、帰_二本寺_一、喪札可_レ行_レ之。若遠處者、就_二當寺_一喪札同。

① 永_レ駒は「斎」を「齋」に作る

(82) 発心作僧事

諸方顯密學徒、改_二本宗_一者、只授_二衣鉢_一、令_二入衆_一也。若臘未_レ持_二一房_一、人來望_二作僧_一、一夏若一冬、且接_二沙弥位_一、令_二給仕_一、後受具入衆。若又雖_二出家形_一、帶_二妻子_一、如_二在家人者、經_二一回_一、令_二淨行_一、受具作僧。若地頭御家人、發心望_二出家_一、真淨發心者、即受具作僧無_レ妨。^①若雜色以下土

民等發心來、尋_二發心因緣_一、清淨心者、即令_二剃髮_一、接_二沙弥_一新戒位。或經_二一回二回、道具調行儀改者、受具作僧。亦諸職游人一類者、非_二拔群人_一者、受具不_レ許_二作僧_一。是永平和尚垂誠也。^③若自_二幼少_一、令_二投下出家_一者、或十五六中、學_二得三經_一、法華、梵網、遺教、四冊_一辨道法、赴粥飯法、寮中清規、參大已者、令_二剃頭受具作僧。

投下狀式

投院童行某甲什姓生年什歲久慕空門	
今某甲什年月日	蒙 _二 父母情允 _一 札
某甲国某甲寺 ^⑤ 某和尚	出家入 _二 叢林 _一
堂頭和尚	慈悲容納
某甲什年月日	俗姓某甲某甲名謹狀

住持狀端点_二押字_一与_レ之、入_二庫下_一、礼_二知事典座及維那_一、各三拜。行堂掛塔、方丈及耆年宿德、依止學文。至_二十五六_一、學文成者、臘八若仏生會、剃頭受戒、受具作僧。剃頭受戒作法、在_二別紙_一。先薙頭、臨_レ時隔夜更剃頭、頂髮留_二方_一

流布本 (大乗寺所蔵本)

古写本 (大乗寺所蔵 「秘本」)

寸^一、待^二作法^一。或雖童形^一、又隔夜剃頭、留^三方寸^一、待^二作法^一。
 或又当日、在^三本尊前^一、作法剃頭無^レ妨。若又住持遷化時節
 者、沙弥童行、不^レ論^二大小年^一、滿具不^レ具剃頭無^レ妨。是名^一
 末後小師^一、叢林通例也。或又在^三龕前^一、或本師孫弟、或法眷
 威主、代^二本師受具。行堂儀、學僧堂儀、夜間坐禪、日裏
 諷經、如^二法儀^一。故名^二選僧堂^一。巨細可^下學^上清規訓童^上。訓童
 并^一行者沙弥^一、齋前者^一、在^三庫下^一隨^二公務^一。齋罷者^一或行堂、
 若依止此丘之諸僚、而學文學書等任^一意。若年來人工中、淨
 發心而望^二作僧者^一、先令^レ著^二行者衣^一、而淨行持戒。或補^レ給
 頭參頭承侍鎮橋等^一。經兩三年、又許^レ直裰小中衣^一、或補^レ鐘
 頭炭頭等^一。又經^二兩年^一、而授衣入衆。守^二永平選僧堂記^一、
 發心為先、故情勿^レ重。出家人本無双發心者、為道伴^一。縱
 雖^二在家奴婢郎從^一、不^レ發心求道^一者、不可^レ伴也。發心族所
 對故情、而勿^レ抑^二留發心^一。是仏制耳。

1 「鎮」の右脇に「聽呼」(永は「可^レ作聽呼」)あり (駒はこの注なし)

① 駒は「者即」を「即者」に作る
 ② 駒は「若」なし

(駒)は「也」の下に「若」あり

(駒)は「允」の右脇に「元乎」あり

(駒)は「某」の下に「甲」あり

(永)は「雜」を「雖」に、(駒)は「雜」を作り、右脇に「雜乎」

あり

(永)は「斎」を「齋」を作る

(駒)は「橋」を「槁」を作る

(永)は「郎」を「即」を作り、右脇に「郎乎」あり

(82)
(19) 祖師忌

先師忌師翁忌一如也。前日莊嚴法堂、隨家豐儉、書筵構^ニ西眠藏、構^ニ東眠藏、前立^ニ連牀。請^ニ両班法眷大勤旧等^ニ点湯、太夜諷經以前也。住持両班大衆集定後、住持自^ニ法座左階^ニ登、而拈香下座、大展三拜。後供^レ茶、又三拜。更燒香供^レ湯、又三拜。後維那出班燒香、倚^ニ棹左辺、向^ニ當面、問訊請^ニ両班。問訊時、住持到^ニ知事上肩^ニ立。両班次第出班燒香^レ、住持帰^ニ本位、礼三拜。両班問訊時離^レ位。表無^ニ二尊、惶恐問訊也。惶恐^①諷經間、卓^ニ立右階下。若行^ニ襯等^ニ也。小師等諷經後、眠藏前祇候。五更、洗面楊枝等供養、粥時燒香禮拜而供^レ粥。粥次、大衆諷經、大悲呪、然後

流布本 (大乘寺所藏本)

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

供^二点心等。半^二齋諷經、礼^レ拜如^二夜前。但諷經時、住持引^レ衆遶行。若有^二上堂、移^レ真於主位^一、供養禮^レ拜。陞座罷、詣^レ真前、燒香禮^レ拜。若師翁住持等、如住者故、殷重修^二影供、行^二大齋會。法嗣本師、雖^レ不^レ登^二平生住持位、我如^レ經^レ住持法座、請出如法供養。雖^レ不^レ先師^一、師翁如^レ遇^二當寺開山忌^一、如法莊嚴供養。公界大事也。但獻^二茶湯、燒香末後、大展三拜而已、無^二大衆普同拜^一。夜前齋時⁽²⁾一如也。住持不^レ離、無^レ避^二兩班^一、問訊若如^二師叔開闢寺院^一者、請^二大衆^一普同拜。如^二師兄開闢寺院祖忌^一者、等輩禮^レ兩展三拜也。彼小師可^二答拜^一、是如在禮也。如^二他門^一、必^レ之無^レ請、普同拜。或住持一周忌第三年等遠忌大仏事者、他山請^レ之。若十方群集、隨^レ力行^二襯錢^一也。或請^二他寺長老^一、令^二陞座講戒^一。

講戒略式 先就^二仏前^一、椅子一脚、棹一脚。彼主人者占^二主位^一、首座等占^二賓位^一。若非^レ處者、別安^二聖僧^一。若施主新^二造^一仏菩薩像、安^レ之。

棹上戒策 戒文 扳子 手炉 洒水器 加^二散杖^一 散杖者、柳枝或梅枝也。長一尺八寸、上下五葉彫^レ之。若打鳴安^レ之。先戒策西下取^二手炉^一 云

令法久住、為^レ利益有情。釈迦牟尼寶号 又一下。正法薰修、為^レ擁護受者滅罪生善。普賢寶号 又一下、次取散枝、順軋三反、

叩レ縁三下、先灌自頂。次一転三下、灌亡魂面前、一転三下右辺、利潤一切衆生。又一転三下左辺、施益護法龍天。⁽⁴⁾

次懺悔文云

欲レ求レ帰戒者、先当レ懺悔罪根。罪根本無、無有レ實性。妄想如レ縁影、作業似レ幻化。無レ非幻身生類、無レ非空識心念。縱變能斷、縱化所斷、本無去來之蹤跡、更無對待之能所。万法皆心光、諸縁悉性曉。夢如レ対貪瞋境、自我外無別法、坐似レ思古今事、自身外無別塵。無始劫來、唯一念内、百千万生、不レ見レ他身。起時唯法起、滅時唯法滅。是故先仏成就。懺悔文曰、

我昔所造諸惡業、皆由無始貪瞋癡、從身口意之所生、一切我今皆懺悔。既身口意業淨滌、而大清淨。須レ帰依仏法僧宝、自覺朗然、本離垢塵。他覺本淨、念念無別。自他和合、能所不隔。汝喚我答、我喚汝答。如レ谷神應響、如レ行雲隨風。生仏一如、身心無二。是一体三宝。証得此理、宣說此理、修行此理。是現前三宝。不知此理、泥木是仏像。不レ顯此理、紙墨是經卷。不明此理、剃髮染衣、已異凡聖。是住持三宝。三種無レ三、三宝一体、是称帰依

流布本 (大乘寺所藏本)

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

想。衆流帰大海、而如百川無別味。四姓出家來、而得
多同釈氏。転凡入聖不可疑。廣度諸衆生、利濟普
自顕及冥、自利利人者也。譬如皇天子勢威、不借禹湯
堯舜^⑥、皇太子天精、不類三公百官。梵釈下恭敬、神祇集
擁護。僧寶美國重寶、而仏法為之有靈驗。仏法本我心上、
而出家為之顯德相、転凡入聖故捨邪歸正。一切惡業
斷除、一切善根修持。我之不知、他之不覺、饒益一切、
平等利濟。是三聚淨戒。身既淨妙法身、三惡自然不所為。
口本廣長舌、四惡從前所禁來。心自遍一切處、三毒終
不結縛。身口意業本解脫道。是則十善戒也。諸惡悉入無
作三昧、修証自住不染三昧。是以金剛不壞之戒德圓滿、而
有頂無間、齊^②所照^③戒光。纏惑摧破之法^④、転^⑤一転、而有情非
情、同開演仏乘。然間、行雲流水、皆宣說無生之話。
不^レ留^レ去來之蹤跡、翠竹桃華等深談寒相之義、超^ニ越聲色
之端。加之、廻^ニ方善萬行之衆流、令^レ帰^ニ向一仏性海。賦^ニ
一仏一經之多德、令^レ饒^ニ益一切衆生。以^レ誰回向、以^レ何回
向、何處回向。能回向、所^ニ回向、三輪清淨、無^レ所^ニ希望。

持此善根、与諸有情、平等共有回向。回向無上正等菩提。又戒策一下、
提一下、大眾下座。

將積此經、可有大意、積名、入文半積之三意。初大意者、此經者、三世諸仏出世之本懷、一切衆生成仏之直道也。是以、教主积尊、摩竭提國鄔樓頻羅、聚落元吉樹下金剛座上、三惑頓破、大夜斯曉之朝、雖須任本懷說中此經上、曩訓千品、機性万差故、三七日、思惟利生方便法、四十余年、調熟所化機根、待法皇啓運喜會之時、說正直捨權無上之妙法。次積題目者、發秘密奧藏、名之為妙。示權實之正軌、稱之曰法。指久遠之本果、彰之以蓮。會不二之圓通、譬之以華。声作仏事、稱之為經。圓詮之初、題之為序。序類相從、指之為品。衆次之首、呼為第一。第三入文判積者、初品為序、從方便品至分別功德品十九行偈、為正宗。從偈後至經訖、為流通。又一時分為二、從序品至安樂行品十四品、約迹開權顯實。自涌出至經訖、約本開權顯實。抑還講說經、其初文如何。

南無妙法蓮華經 三遍。

流布本 (大乗寺所蔵本)

回向

今日、大檀那百年無^レ恙、持^ニ東母西母齡^ニ、福祚無^レ辺。論^ニ梅生松子命^ニ、孝行之門前、捧^ニ百年不凋之花枝^ニ、水井之窓下、弄^ニ千歳不夜之月光^ニ。殊今日所^レ奉^レ訪^ニ亡者^{某甲}、莊^ニ嚴報地^ニ、円^ニ滿覺路^ニ。平生已護^ニ持^ニ仏祖相承之正戒^ニ、位同^ニ大覺^ニ已。真文何疑。今日重^{讀^誦}^{頓^写}一実真如妙経^ニ、速成就^ニ仏身金言是新^ニ。非想昧劣之上、慧風扇驚^レ心。無間大城之底、法雨洒消^レ苦。若爾者、上蒼蒼頂、下至冥冥底、濟度施冤親、利益與存亡。願以此功德、普及於一切、我等與衆生、皆共成^ニ仏道^ニ。

古写本 (大乗寺所蔵「秘本」)

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ① | 〔輪〕の右脇に「リン」あり (永駒はなし) |
| ② | 〔説〕の左脇に「二作讚」あり |
| ③ | 〔井〕の右脇に「二作菽」あり |
| ④ | 〔駒〕は「惶恐」を「恐怖」を作る |
| ⑤ | 〔駒〕は「斎」を「齋」を作る |
| ⑥ | 〔駒〕は「亡」を「已」を作る |
| | 〔駒〕は「体」を作り、右脇に「一作 ^ノ 体」あり |

(駒)は「禹湯堯舜」を「堯舜禹湯」を作る

(7) 永駒は「染」を「善」に作り、(8) 永は右脇に「一作レ染」あり
(7) 永駒は「転」を「輪」に作る
(8) 永駒は「万善万行」を「万行万善」を作る
(9) 駒は「輪」を「転」にする
(10) 駒は「輪」を「転」に作る
(11) 永駒は「目」を「因」に作り、(12) 永は右脇に「一作レ目」あり
(12) 駒は「写」を「字」を作る

(82)
(20) 立僧

或法嗣人中、首座等頭首知事中、有_二拔群人_一時行_レ之、其儀
懸重也。先主人上堂、_三拳_二因縁_一令_二衆悉知_一。後或庫下、或昭_①儀
堂、若衆寮、或如_二拔群尊長_一者、即就_二丈室_一、許_二入室_一。主
人、當_二大衆入室半過時、過_②入室_一時、首座等、下座立_レ地、
曲躬問訊、起立叉手、拳_レ問聞答話。又曲躬問訊。進兩三
步、送出再著座。或賜_二袈裟_一、或賜_二竹籠_一。如_二立僧首座_一者、
茶札等請時、用_二両展_一也。辭者触礼無_レ妨。如_二興聖_一典座辨
和尚一人、立僧典座也。大乘会裏瑾老、立僧首座也。就_二丈
室_一許_二入室_一。洞谷会裏哲首座、立僧首座也。法衣竹籠、衆
前賜_レ之。

① 駒は「昭」を「照」に作る

流布本（大乘寺所藏本）

古写本（大乘寺所藏「秘本」）

② 永駒は「過」を「遇」に作る

(82)
(2) 羅漢供祭文

維某年号歲次支干今日今日、釈迦遺法弟子等、夙聞、十六羅漢、得^一仏親附囑^一、現住^二世間、紹^一隆^一仏法。仍奉^下為^一報^一恩德^一、謹以^三香華茶葉蔬食餚^一、聊獻^中十六大羅漢等^上。伏以羅漢尊者、張^一般若之錦帆^一、越^一煩惱之欲界^一。一生生潔、一步步麗。体如^三百鍊鎔金^一、心似^一輪孤月^一。或眉垂到^レ地、或眼放^二異光^一、或居^二万仞雪峯頭^一、或在^二千尋烟樹下^一。亦有居^二金龕玉殿、銀閣珠房、石室香林、天宮仙洞^一。悉領^二百千眷屬、皆住^一極果^一聖人也。譬如^二旃檀^一之林、唯有^二旃檀^一圍繞^上。亦有^下赤髮而手擎玉鉢^一、白足而耳掛^中金環^上。無^レ非^一法界麟童^一。尽是^レ炽天日月也。經曰、皆得^二三明六通^一、具^二八解脱者也。其備^二香華烟水齋^一供^一虔初^一。有^レ請必通、無^レ求不^レ応。豈可^レ不^レ奉^レ拝^一、請^レ仏親付囑^一至尊^一。億百千万里、如^三壯士屈^二伸臂^一。降^二臨道場^一、受^レ如^二此供養^一。伏願、十六大羅漢、率^二諸眷屬^一大阿羅漢等^一、維場同垂^二納饗^一。

洞谷記終^⑥

- ① 駒は「親付」を「新附」を作る
- ② 駒は「之」なし
- ③ 駒は「匪」を「開」を作る
- ④ 永駒は「斎」を「齋」を作る
- ⑤ 駒は「處」を「処」を作る
- ⑥ 永駒は「終」の下に「都計六十六紙」あり

【83】洞谷記

以下出「于当寺室中秘本」

偈

瑩山始踏_二當山_一夜、此地夢看_二榎樹大_一。
繁鬱枝條盈_三溪澗_二、方來多掛_二破草鞋_一。
覺悟為_二海內名藍_一、江湖雲水集_二當山_一。
翌日密_二語本檀主_一、自_レ尔永占_二茲山_一了。
後年見_二出榎樹株_一、再生枝條漸繁鬱_。
縉白擁護須_二生長_一、樹神必鎮_二護山門_一。

文保 戊午秋記之。

(20) 瑩山始踏_二當山_一夜、此地夢看_二榎樹大_一。

繁鬱枝條盈_三溪澗_二、方來多掛_二破草鞋_一。

覺悟為_二海內明藍_一、江湖雲水集_二當山_一。

翼日密_二語本旦主_一、自_レ尔永占_二茲山_一了。

後年見_二出榎樹株_一、再生枝條漸繁鬱_。

縉白擁護須_二生長_一、樹神必鎮_二護山門_一。

文保 戊午秋記之。

流布本 (大乘寺所藏本)

〔84〕 元亨二年壬戌正月十四日、願生生年八十三、発心作レ
僧臘次六十四。妻尼心妙、同時作レ比丘尼、息女心正、孫女
淨忍、同発心作レ尼。喝食家中一族皆発心、奇代事故為レ山
德、故入山人、必発心求道。

〔85〕 明峰和尚置文

加州大乘
洞谷 両寺住持職事

右彼住持職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同心談
合、而抆レ出嗣法小師之中、其機用之仁、可レ令レ住持者也。

〔86〕 此外諸寺事

加州分 願成寺 仲興寺 儕德寺 崇禪寺 大會寺

能州分 道興寺 慧恩寺 ⁽²⁾円光寺

右彼諸寺坊主職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同
心談合、而抆レ出其機用之仁、可レ令レ居住者也。子孫固
可レ守レ此旨、為レ永代龜鏡記レ之。

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

〔58〕 元亨二年壬戌正月十四日、願生々年八十三、発心作レ
僧臘次六十四。妻尼心妙、同時作レ比丘尼、息女心正、孫女
淨忍、同発心作レ尼。喝食家中一族皆発心、奇代事故為レ山
德、故入山人、必発心求道。

〔78〕 明峰和尚置文

加州大乘
洞谷 両寺住持職事

右彼住持職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同心談
合、而抆レ出嗣法小師之中、其機用之仁、可レ令レ住持者也。

〔79〕 此外諸寺事

加州分 願成寺 仲興寺 儕德寺 崇禪寺 大會寺

能州分 道興寺 慈恩寺 圓光寺

右彼諸寺坊主職者、嗣法小師、並伝戒小師、受業小師、同
心談合、而抆レ出其機用之仁、可レ令レ居住者也。子孫固
可レ守レ此旨、為レ永代龜鏡記レ之。

觀応元年庚午三月廿三日

住大乘素哲御判

- ① 永は「僕」を「仏」に作り、右脇に「僕」あり
② 駒は「慧」を「惠」に作る

【87】能州洞谷山永光寺瑩山和尚語錄

侍者 源祖編

賀新旧鑑寺維那典座浴主。

上堂云、蒼龍退レ骨作「雲雨」、玄豹披霧全^①虎威。拳山巨海
悅衆同、塩味調適知浴時。

上堂云、參禪者身心脱落也。身無_二所作、心無_二思量。不思
量而現、不回互而成。

上堂云、人人本有一坐具地、不_レ受_二他处分、從来自住久、
休_二歇競求馳走心、始得_二穩坐。

四月八日、仏生上堂云、如如仏出生來、海眼自深、岳眉自
高、人人本無_二第二人、箇箇無_レ非_二至尊。所以、仰迦如來初
生時、周_二行十方各七步、而一手指_レ天、一手指_レ地曰、天
上天下唯我獨尊。如何會_二獨尊底事。良久曰、人人不_レ讓_レ

觀応元年庚寅三月廿三日

住大乘素哲御判

【80】能州洞谷山永光寺瑩山和尚語錄

侍者 源祖編

賀新旧監寺維那典座浴主。

上堂云、蒼龍退レ骨作「雲雨」、玄豹披霧全^①虎威。拳山巨海
悅衆同、塩味調適知浴時。

上堂云、參禪者身心脱落也。身無_二所作、心無_二思量。不思
量而現、不回互而成。

上堂云、人々本有一坐具地、不_レ受_二他处分、從来自住久、
休_二歇競求馳走心、始得_二穩坐。

四月八日、仏生上堂云、人々仏出生來、海眼自深、岳眉自
高、人々本無_二第二人、箇々無_レ非_二至尊。所以、尺迦如來初
生時、周_二行十方各七步、而一手指_レ天、一手指_レ地曰、天
上天下唯我獨尊。如何會_二獨尊底事。良久云、人人不_レ讓_レ

流布本 (大乘寺所藏本)

他。

結夏小參、賀「新旧首座」曰、直得第一頭事、卓立万機前。
藏身則仏祖觀不_レ得、出頭則人悉為模範、進前退後、不_レ
借他力、靈山分半座、曹谿比化益。進退首座老僧、如_ニ
左手右手。正当与麼時、老僧從前分半身。記得、世尊言、
以「大円覺」、為「我伽藍」、身心安居、平等性智。諸人如何
識取平等性智。人人無_レ別、個個自住。夜深久立。伏惟珍
重。

結夏上堂、洞谷雲收、青松綠深、永光水清、明月光鮮。山
僧安居、歷年安樂、人人円覺、當衆不昧。仏祖眼睛垂出、
沙門全身自彰、世尊一日陞座。良久、文殊白槌云、諦觀法
王法、法王法如是。以「弘子」打「円相」云、山僧教下法王法、
周与「諸人」安_レ居、無_レ欠無_レ余。

上堂、其坐禪者、大安樂法門、大解脫妙法也。人人以心伝
心之心印、箇箇以法授法之表準、智愚無_レ別、凡聖不_レ隔。
尽安_ニ住自受用三昧、齊_ニ入光明藏三昧、從_レ本離_ニ心意識
之運轉、更作_ニ念想觀之測量、諸人識取麼未也。山僧代_レ他、

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

他。

結夏小參、賀「新旧首座」曰、直得第一頭事、卓立万機前。
藏身則仏祖觀不_レ得、出頭則人悉為模範、進前退後、不_レ
借他力、靈山分半座、曹谿比化益。進退首座老僧、如_ニ
左手右手。正当与麼時、老僧從前分半身。記得、世尊言、
以「大円覺」、為「我伽藍」、身心安居、平等性智。諸人如何
識取平等性智。人々無_レ別、箇々自住。夜深久立。伏惟珍
重。

結夏上堂、洞谷雲收、青松綠深、永光水清、明月光鮮。山
僧安居、歷年安樂、人々円覺、當衆不昧。仏祖眼睛垂出、
沙門全身自彰、世尊一日陞座。良久、文殊白槌云、諦觀法
王法、法王法如是。以「弘子」打「円相」云、山僧教下法王法、
周与「諸人」安_レ居、無_レ欠無_レ余。

上堂、其坐禪者、大安樂法門、大解脫妙法也。人々以心伝
心之心印、箇箇以法授法之表準、智愚無_レ別、凡聖不_レ隔。
尽安_ニ住自受用三昧、齊_ニ入光明藏三昧、從_レ本離_ニ心意識
之運轉、更作_ニ念想願之測量、諸人識取麼未也。山僧代_レ他、

欲二転語、大衆要レ聴麼。良久云、不思量而現、不回互而成。

上堂云、安居而得二十一日、堂中事如何。万機休罷、諸緣放尽、一味蕭條、無異工夫。只如三雲蓋問「石霜」、万戸俱開則不レ問、万戸俱閉時如何。霜云、堂中事如何。蓋無レ語。經二半年、下語云、無三人接得渠。霜云、道即太殺道、只道得八成。蓋問云、堂中事如何。霜云、無三人識得渠。瑾上座則不然、暫問「堂中事如何、無三人借他力。」

端午上堂、五月五日天中節、百草頭上生殺新、甘草不レ知レ甜、黃連不レ辨レ苦。只箇不肅草、從レ本離「甘酢苦辛鹹淡」、曾非「地水火風空識」。能有「殺レ人力」故、殺レ仏不レ令レ説レ法、殺生不レ令レ聽レ法、不レ説レ法不レ聽レ法時如何。人人從レ本非「父母所生身。」

上堂云、學道先須明「出家事」。出家者非「四大五蘊身」、非「三界受生身」。所以無「衣法所在」、「外無性法所住」、「內如明鏡無台」，似「巨海無涯」。縱雖了識分別憎愛受生名色形現、十二輪轉、如「珠自轉自輶」。廣劫以來、不レ受「人瞞」、「山河大地草木森羅」，皆是自己光明。更無「別塵」、「無異法」、不レ見レ道。万法是心光、諸緣唯性曉、畢竟如何保任。周徧十方心、

欲二転語、大衆用レ聴麼。良久云、不思量而現、不回互而成。

上堂云、安居而得二十一日、堂中事如何。万機休罷、諸緣放尽、一味蕭條、無異工夫。只如三雲蓋問「石霜」、万戸俱開則不レ問、万戸俱閉時如何。霜云、堂中事如何。蓋無レ語。經二半年、下語云、無三人接得渠。霜云、道即太殺道、只道得八成。蓋問云、堂中事如何。霜云、無三人識得渠。瑾上座則不然、暫問「堂事中如何、無三人借他力。」

端午上堂、五月五日天中節、百草頭上生殺新、甘草不レ知レ甜、黃連不レ弁レ苦。只箇不肅草、從レ本離「甘酢苦辛鹹淡」、曾非「地水火風空識」。能有「殺レ人力」故、殺レ仏不レ令レ説レ法、殺生不レ令レ聽レ法、不レ説レ法不レ聽レ法時如何。人々從レ本非「父母所生身。」

上堂云、學道先須明「出家事」。出家者非「四大五蘊身」、非「三界受生身」。所以無「衣法所在」、「外無性法所住」、「內如明鏡無台」，似「巨海無涯」。縱雖了識分別憎愛受生名色形現、十二輪轉、如「珠自轉自輶」。廣劫以來、不レ受「人瞞」、「山河大地草木森羅」，皆是自己光明。更無「別塵」、「無異法」、不レ見レ道。万法是心光、諸緣唯性曉、畢竟如何保任。周徧十方心、

流布本 (大乘寺所藏本)

不レ在ニ一切処。

上堂、諸情皆尽処、一切無為時、汝若惺惺坐、人人悉不レ疑。此不疑田地、不レ触レ事明知、知所本無レ語、了然唯不レ移。熾然円覚体、見覺又聞知、一切智清淨、根塵本遠離。上堂云⁽⁶⁾、大円鏡智現ニ成身、成所作身無ニ等倫、平等智身離ニ造作、妙觀察智絶ニ思塵。

上堂曰⁽⁷⁾、即心即仏、浪自醸酔者、如ニ狂者与レ鈴、歷劫不レ得ニ自歎。非心非仏、要レ強ニ承当、縱使你不レ能ニ承当、也是非ニ別人。且道、如何履践、得ニ与麼相應去。良久云、虛空誰敢掛ニ絲髮、心上從來無ニ垢塵。

六月一日上堂、叢林依旧、放ニ下坐禅。夫坐禅者、仏祖一大事因縁也。放ニ下万事、休ニ歇諸縁、只管保ニ任自己、真箇令レ学ニ無為。雖然如ニ是、禪也放下、而教下人知ニ自己⁽⁸⁾如中怨家⁽⁹⁾。諸人還識取也未。若未⁽¹⁰⁾識取、山僧換レ衆欲レ拈ニ出一語、大衆委悉要ニ聽取。即放ニ下払子、斂レ手良久而下座。

① 駒は「霧」を「露」に作る
② 永駒は「日」を「云」に作る

古写本 (大乘寺所藏「秘本」)

不レ在ニ一切処。

上堂、諸情皆尽処、一切無為時、汝若惺々坐、人々悉不レ疑。此不疑田地、不レ触レ事明知、知所本無レ語、了然唯不レ移。熾然円覚体、見覺又聞知、一切智清淨、根塵本遠離。上堂曰、大円鏡智現ニ成身、成所作身無ニ等倫、平等智身離ニ造作、妙觀察智絶ニ思塵。

上堂云、即心即仏、浪自醸酔者、如ニ狂者与レ鈴、歷劫不レ得ニ自歎。非心非仏、要レ強ニ承当、縱使你不レ能ニ承当、也是非ニ別人。且道、如何履践、得ニ与麼相應去。良久云、虛空誰敢掛ニ絲髮、心上從來无ニ垢塵。

六月一日上堂、叢林依旧、放ニ下坐禅。夫坐禅者、仏祖一大事因縁也。放ニ下万事、休ニ歇諸縁、只管保ニ任自己、真箇令レ学ニ無為。雖然如ニ是、禪也放下、而教下人知ニ自己⁽⁸⁾如中怨家⁽⁹⁾。諸人還識取也未。若未⁽¹⁰⁾識取、山僧換レ衆欲レ拈ニ出一語、大衆委悉要ニ聽取。即放ニ下払子、斂レ手良久而下座。

永は「要」を「用」に作り、右脇に「要力」あり

駒は「云」を「曰」を作る

駒は「如明鏡無台」を「明鏡如無台」を作る

永駒は「云」を「曰」を作る

⑦ ⑥ ⑤ ④ ③
駒は「曰」を「云」を作る

【88】住持職人可レ帶文書事

明峯派峨山派儀絶時、管領畠山方訴訟目安

從上葉山雲岩以下、正有_二伝創^①、謂家訓訓訣也。先師如淨禪師初住_二瑞岩、中比住_二淨慈、後住_二天童。師受_二淨慈之請、固辭不_レ住。其故、天下叢林、尽不_レ依_二弘_一戒位、而行_二勤_一舊位西堂位、總是新儀也。故不_二敢住。爰天童前住派無際、徑山當住琰浙翁、惟_二西堂、當_二斷_一斯事、奏_二聞天子、目_二破_一勤_二舊西堂兩位、依_二弘祖戒位、此沙汰四箇月、乃嘉定十六年癸未也。於是師方遂_二本素、先住_二淨慈、後住_二天童。是則自家口伝訓訣一介也。

日本八坂戒妙西堂、建仁寺西堂也。於_二永光寺二代之時、不_レ被_レ行、近來有_二此儀_一。又三日、大渡前住其名智照、寒岩和尚小師也。參_二暇永平寺彙希和尚住院之時、雖_レ競_二望西堂

（82）住持職人可レ帶文書事

明峰派峨山派儀絶之時、管領畠山方訴訟目安

從上葉山雲巖以下、正有_二伝創^②、謂家訓々訣也。先師如淨禪師初住_二瑞巖、中比住_二淨慈、後住_二天童。師受_二淨慈之請、固辭不_レ住。其故、天下叢林、尽不_レ依_二弘_一戒位、而行_二勤_一舊位西堂位、總是新儀也。故不_二敢住。爰天童前住派無際、徑山當住琰浙翁惟_二西堂、當_二斷_一斯事、奏_二聞天子、目_二破_一勤_二舊西堂兩位、依_二弘祖戒位、此沙汰四ヶ月、乃嘉定十六年癸未也。於是師方遂_二本素、先住_二淨慈、後住_二天童。是則自家口伝訓訣之一介也。

日本八坂戒妙西堂、建仁寺西堂也。於_二永光寺二代之時、不_レ被_レ行、近來有_二此儀_一。又三日、大渡前住其名智照、寒巖和尚小師也。參_二暇永平寺彙希和尚住院之時、雖_レ競_二望西堂

古写本 (大乗寺所蔵「秘本」)	流布本 (大乗寺所蔵本)
<p>位、不_二敢聽許、処_二上座位、至_三夏末_一任_二首座、乃_一請令_レ 住_二持永平。是則自家訓訣一介也。又中比、雲和尚時、南禪 寺西堂道英首座、於_二永平寺、竟不_レ被_レ行。</p> <p>紹瑾遺跡所々遺付 八ヶ寺 洞谷記在_レ之。</p> <p>日本越州永平寺、開山道元禪師。加州大乗寺者、永平三代 徹通和尚開闢也。</p> <p>能州永光寺者、大乘開山嫡子瑩山和尚開闢也。</p> <p>淨住總持之二ヶ寺者、同瑩山和尚遺跡也。淨住寺者、根本 瑩山和尚之悲母慧觀大姑開闢也。瑩山和尚遷化之後、兒孫 改_二易慧觀大姑_一而勸_二請瑩山和尚、總彼二ヶ寺、混_二大乘 寺_一而態不_レ齊、支証明鏡也。于_レ茲從_二門跡_一被_レ申子細 者、大乘寺與_二淨住總持二ヶ寺_一可_レ齊位。其故者、大乘寺 者、讓_二与明峰和尚_一寺也。淨住總持者、讓_二与無涯峨山_一寺 也。然則三ヶ寺共私寺也。故可_レ齊位、是以難_二心得_一義也。 其故大乘寺者、徹通和尚開闢地也。瑩山和尚之師匠也。豈 與_二師之寺_一齊_レ位。其上明峰和尚者、於_二當門下_一可_レ為_二僧 祿^⑧_二支証_一并讓_二与之御狀在_レ之、不可_レ混_二淨住總持兩門下_一者</p>	<p>位、不_二敢聽許、処_二上座位、至_三夏末_一任_二首座、乃_一請令_レ 住_二持永平。是則自家訓訣一介也。又中比、雲和尚時、南禪 寺西堂道英首座、於_二永平寺、竟不_レ被_レ行。</p> <p>紹瑾遺跡所々遺付 八ヶ寺 洞谷記在_レ之。</p> <p>日本越州永平寺、開山道元禪師。加州大乗寺者、永平三代 徹通和尚開闢也。</p> <p>能州永光寺者、大乘開山嫡子瑩山和尚開闢也。</p> <p>淨住總持之二ヶ寺者、同瑩山和尚遺跡也。淨住寺者、根本 瑩山和尚之悲母惠觀大姑開闢也。瑩山和尚遷化之後、兒孫 改_二易惠觀大姑_一而勸_二請瑩山和尚、總彼二ヶ寺、混_二大乘 寺_一而態不_レ齊、支証明鏡也。于_レ茲從_二門跡_一被_レ申子細 者、大乘寺與_二淨住總持二ヶ寺_一可_レ齊位。其故者、大乘寺 者、讓_二与明峰和尚_一寺也。淨住總持者、讓_二与無涯峨山_一寺也。 然則三ヶ寺共私寺也。故可_レ齊位。是以難_二心得_一義也。其 故大乘寺者、徹通和尚開闢地也。瑩山和尚之師匠也。豈 與_二師之寺_一齊_レ位。其上明峰和尚者、於_二當門下_一可_レ為_二僧 祿^⑧_二支証_一并讓_二与之御狀在_レ之、不可_レ混_二淨住總持兩門下_一者</p>

歟。上古、太源和尚總持寺當住之時、就永光寺有出仕。其時、帶赤坐具而云、與大乘寺前住可齊位。自當門下押之間、則懸黑坐具有出仕。中比、光恩寺無等和尚永光寺住院時、被訴訟旨者、西堂位并兩寺名字、就本寺可被行、則當門下有評議、不被行。其故、異朝如淨和尚之時、於天童、惟一西堂、不被行西堂位亦曰本於永平寺、八坂海妙西堂并智照和尚、不行西堂位。自上古至今、當門下、不被行西堂位、末寺名字就本寺行事、先規其例。此沙汰於法中難落居間、能州吉見殿御時、守護代屬五井、而於永光寺開山塔伝燈院對決、而依理非、可有裁許被報處。淨住總持兩門下、起先師靈骨、捨塔頭離山、然當門下守本寺、住院二十余年。爰神保肥前入道、依為總持寺派瑞岩和尚弟子、不及已前所望西堂位名字沙汰、淨住總持前住、就永光寺立東堂位。仍加州之明峰派儀絕、而停止出仕。能州之當門下、雖不可立逢、神保守護代而以權威、沒倒寺院、可押檀那所領由、發言之間、暫失本意、立逢者也。

歟。上古、太源和尚總持寺當住之時、就永光寺有出仕。其時、帶赤坐具而云、與大乘寺前住可齊位。自當門下押之間、則懸黑坐具有出仕。中比、光恩寺無等和尚永光寺住院時、被訴訟旨者、西堂位并兩寺名字、就本寺可被行、則當門下有評議、不被行。其故、異朝如淨和尚之時、於天童、惟一西堂、不被行西堂位亦曰本於永平寺、八坂海妙西堂并智照和尚、不行西堂位。自上古至今、當門下、不被行西堂位、末寺名字就本寺行事、先規其例。此沙汰於法中難落居間、能州吉見殿御時、守護代屬五井、而於永光寺開山塔伝燈院對決、而依理非、可有裁許被報處。淨住總持兩門下、起先師靈骨、捨塔頭離山、然當門下守本寺、住院二十余年。爰神保肥前入道、依為總持寺派瑞岩和尚弟子、不及已前所望西堂位名字沙汰、淨住總持之前住、就永光寺立東堂位。仍加州之明峰派儀絕、而停止出仕。能州之當門下、雖不可立逢、神保守護代而以權威、沒倒寺院、可押一旦那所領由、發言之間、暫失本意、立逢者也。

『洞谷記』二種对照 二十一(一) (河合)

	古写本 (大乗寺所蔵「秘本」)
自「畠山」議返報	自「畠山殿」返状
自「加州大乗寺」御申候四門跡寺次第并東堂位事、大乗寺方訴訟為理運之至極之上者、至当国永光寺者、可打渡明峰門下之状、如件。	自「加州大乗寺」御申候四門跡寺次第并東堂位事、大乗寺方訴訟為理運之至極之上者、至当国永光寺者、可打渡明峰門下之状、如件。
応永廿二年四月五日 在判	応永廿二年四月五日 在判
遊佐美作入道殿	遊佐美作入道殿
① 駒は「創」の右脇に「異本副」あり ② 駒は「箇」を「ヶ」を作る ③ 永は「希」を「奇」を作り、右脇に「希乎」あり ④ 駒は「不」の下に「可」あり ⑤ 駒は「以」の右脇に「一本真以」あり ⑥ 駒は「寺」の下に「可」あり ⑦ 駒は「位」の下に「乎」あり ⑧ 駒は「禄」を「録」を作る ⑨ 駒は「海」の右脇に「一本戒」あり ⑩ 駒は「不」の下に「被」あり ⑪ 駒は「仍」の右脇に「一本是故」あり ⑫ 駒はこの行の左に「応永廿二年二月二十八日 大乗寺現住 遊佐美作入道殿」あり	1 「殿」の左に「一校畢 都合三十一丁」あり

[89] 日本永享四年壬子卯月廿九日、申出法永寺菊堂和尚御真筆之御本、而於禪昌寺監院僚而書写畢。

小新戒比丘 英就謹白

(83) 日本永亨四年壬子卯月廿九日、申出法永寺菊堂和尚御真筆之御本、而於禪昌寺監院僚而書写畢。

小新戒比丘 英就謹白

(90) 洞谷記者、吾瑩山大師親口之垂範、而当山永光室中所伝之秘錄也。予今秋適訪洞谷山春山和尚、因持借室中之秘錄、而再四捧閱、則体例文字、両本互增減不一。故不忍レ措照^{得之}、別重^三輯一冊、以為換正、歸^一的之洞谷記。卷内多謂「異本」者、吾室中之古本也。向後是為「龜鏡」矣。

竜纏戊戌享保三冬安居日、現住大乘法孫比丘燈照玄
於碧巖室中敬書 印印

① 永駒はこの段なく、駒は卷末に以下の文あり

明峰和尚置文 両寺住持職事 加州大乘

右彼住持職者、嗣法小師、並伝戒心師、受業小師、同心評談
而挾^三出、嗣法小師之中其機用仁、可^レ令^二住持者也。

此外諸寺事

加州分 能州願成寺 加州仲興寺 能州僕德寺 崇禪寺 加州
大會寺 越中光禪寺 能州分 道興寺 慧恩寺

流布本（大乘寺所藏本）

円光寺

右彼諸寺坊主職者、嗣法小師、並伝戒心師、受業小師、同心
拵其機用、可レ令居住者也。子孫固守此旨、可レ為永代龜
鏡也。

觀応元年庚寅三月二十三日、前住大乗紹燈素哲 在判

右ノ置文ニ無キモノハ、明峰和尚滅后、弟子ノ勸請開山ト
セルモノ也。

千時万治三庚子年三月十四日

同年越中ニ郡寒江自得寺、惣持寺ヨリ公事仕懸永光寺ノ大雄
ノ末寺ヲ取り、艘持寺付候。其前夏、正保四年ニ奥州黒石正
法寺南堯和尚、伝授ニ登山、是モ公事仕掛。鰐持寺ヘ取付シ
以来、当寺出頭時到者、取り帰シ大雄庵ヘ付置被下度侯。
時寛永十九年壬午六月廿三日書レ之

当中中興久外嫩良 花押

諸嶽山總持禪寺之行記奧書

洞谷第一祖瑩山大和尚、為後昆所レ設也。然當山紀綱寮常住
之旧本、字画漫滅、編次不正、愚概念之久矣。粵応永壬寅冬
十一月、愚蒙同門諸老之尊命、領當山之主盟焉。仍拝膳
此行記、而以備紀綱寮之公用者也。愚喜償素志矣。雖然
刀刃東手手毫毫之謬、只恐家醜外揚、貽謗傍人焉。不レ
勝、僥倖懼戰粟之臻、代覬後賢君子、穿鑿改正、而為レ予雪屈矣。

古写本（大乘寺所藏「秘本」）

勿レ袖慈愍之手、幸甚。

時心永三十年歲次癸卯春正月吉日

當山開闢瑩山祖師五世玄孫比丘梵清誌

大仲光椿和尚者、洞谷二百三十七世、受業於總持南窓和尚、嗣法於澄江和尚。長享二戊申歲四月四日入院、三日住也。能州大津人事也。

主大仲僧叟光椿

永光寺秘藏洞谷清規筆寫人

(完)